



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(平成30年12月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	平成30年9月	平成30年12月	前回調査比
茨城県	50.4	<b>47.8</b>	△2.6
県北地域	50.0	<b>48.7</b>	△1.3
県央地域	53.0	<b>47.5</b>	△5.5
鹿行地域	47.8	<b>49.1</b>	+1.3
県南地域	53.9	<b>50.0</b>	△3.9
県西地域	47.4	<b>44.0</b>	△3.4

## 《景気の先行き判断DI》

	平成30年9月	平成30年12月	前回調査比
茨城県	50.1	<b>49.5</b>	△0.6
県北地域	50.9	<b>50.0</b>	△0.9
県央地域	53.9	<b>50.8</b>	△3.1
鹿行地域	50.4	<b>48.7</b>	△1.7
県南地域	51.7	<b>47.8</b>	△3.9
県西地域	43.4	<b>50.0</b>	+6.6

平成31年1月

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	20
3	その他の意見	31

問い合わせ先

茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、太子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

#### 【地域別・業種別調査客体数】

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	289 人	96.3%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	59 人	98.3%
鹿行地域	60 人	57 人	95.0%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	58 人	96.7%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。平成30年12月調査の調査期間は、平成30年12月5日から平成30年12月31日である。

## 6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5点 \times 100\%) = 50$  となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1)景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは47.8となった。平成30年9月調査(以下、「前回調査」という。)より2.6ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

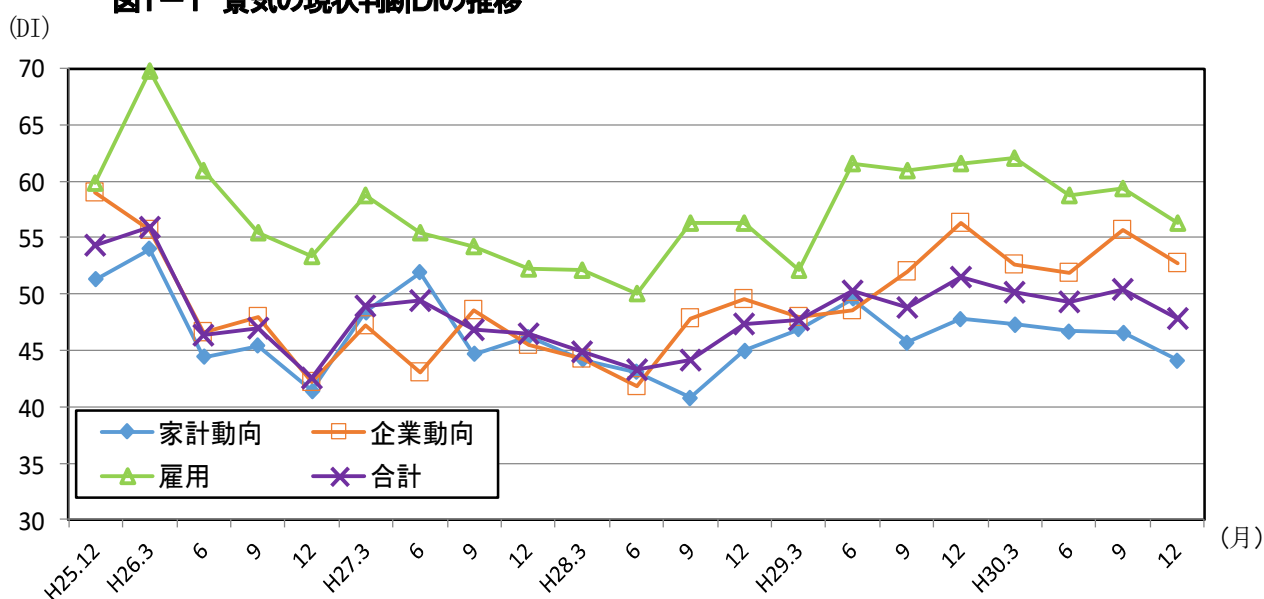
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月				
	平成29年 12月	平成30年 3月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月
<b>合計</b>	<b>51.5</b>	<b>50.1</b>	<b>49.3</b>	<b>50.4</b>	<b>47.8</b>
<b>家計動向関連</b>	<b>47.8</b>	<b>47.3</b>	<b>46.7</b>	<b>46.6</b>	<b>44.1</b>
小売関連	44.1	48.5	44.9	44.8	42.0
飲食関連	47.9	47.8	45.7	42.4	42.4
サービス関連	49.4	43.8	47.8	47.7	46.1
住宅関連	63.9	66.7	52.8	62.5	47.2
<b>企業動向関連</b>	<b>56.3</b>	<b>52.6</b>	<b>51.9</b>	<b>55.6</b>	<b>52.8</b>
農林水産業	50.0	46.9	59.4	56.3	50.0
製造業	54.6	51.0	52.6	57.3	51.6
非製造業	60.0	56.5	49.3	53.0	55.1
<b>雇用関連</b>	<b>61.5</b>	<b>62.0</b>	<b>58.7</b>	<b>59.4</b>	<b>56.3</b>

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成29年12月	3.0%	25.3%	50.0%	18.0%	3.7%
平成30年3月	2.5%	22.8%	51.9%	18.2%	4.6%
平成30年6月	2.8%	18.1%	56.6%	18.8%	3.8%
平成30年9月	3.5%	19.1%	57.6%	15.3%	4.5%
平成30年12月	2.8%	17.0%	54.7%	20.1%	5.5%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは49.5となった。前回調査より0.6ポイント低下し、横ばいを表す50を8期ぶりに下回った。

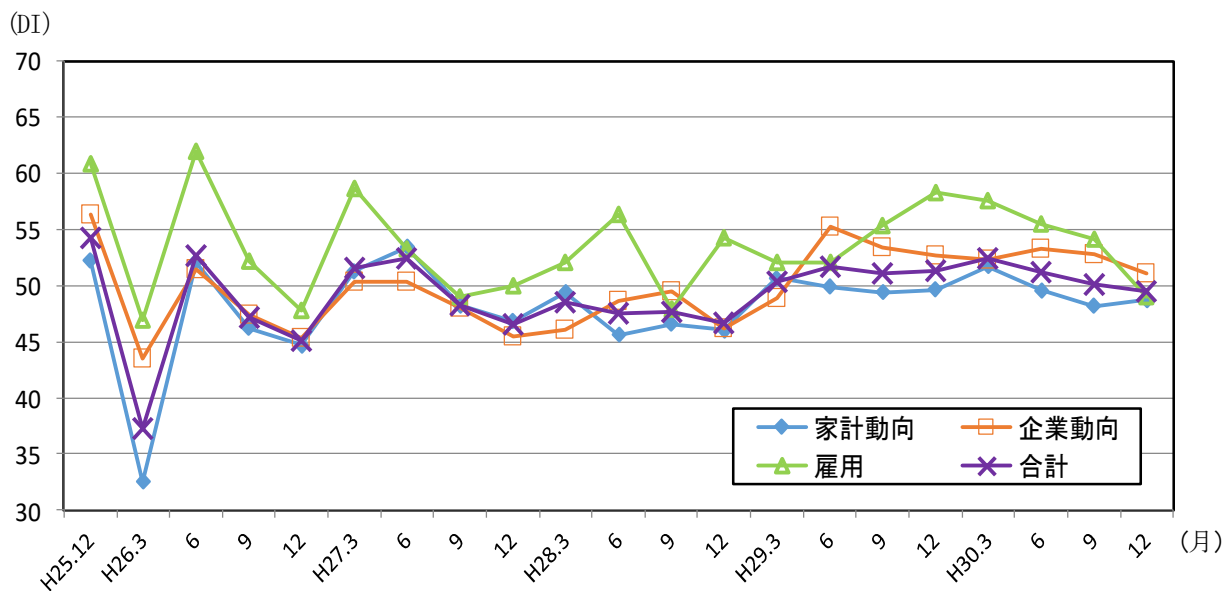
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	平成29年 12月	平成30年 3月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月
<b>合計</b>		<b>51.3</b>	<b>52.4</b>	<b>51.2</b>	<b>50.1</b>	<b>49.5</b>
<b>家計動向関連</b>		<b>49.6</b>	<b>51.7</b>	<b>49.6</b>	<b>48.1</b>	<b>48.7</b>
小売関連		47.2	48.9	50.0	46.6	46.6
飲食関連		46.9	54.3	45.7	40.2	46.7
サービス関連		52.2	52.0	48.4	50.0	49.0
住宅関連		52.8	63.9	66.7	65.6	66.7
<b>企業動向関連</b>		<b>52.7</b>	<b>52.3</b>	<b>53.3</b>	<b>52.8</b>	<b>51.1</b>
農林水産業		46.9	53.1	56.3	43.8	50.0
製造業		54.1	52.1	53.6	52.1	50.0
非製造業		52.1	52.4	52.2	56.1	52.9
<b>雇用関連</b>		<b>58.3</b>	<b>57.6</b>	<b>55.4</b>	<b>54.2</b>	<b>49.0</b>

表1-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	2.7%	18.0%	63.3%	13.7%	2.3%
平成30年3月	2.1%	25.6%	56.1%	11.9%	4.2%
平成30年6月	1.0%	22.9%	58.3%	15.3%	2.4%
平成30年9月	2.4%	18.1%	60.1%	16.3%	3.1%
平成30年12月	3.1%	17.0%	57.8%	19.0%	3.1%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1) 景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは48.7となった。前回調査より1.3ポイント低下し、横ばいを表す50を7期ぶりに下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		53.3	50.0	51.3	50.0	48.7
	家計動向関連	50.7	47.1	43.9	46.4	41.2
	企業動向関連	60.5	55.3	61.8	55.3	60.5
	雇用関連	43.8	50.0	62.5	56.3	56.3

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	3.3%	28.3%	48.3%	18.3%	1.7%
平成30年3月	1.8%	26.3%	45.6%	22.8%	3.5%
平成30年6月	3.6%	17.9%	60.7%	16.1%	1.8%
平成30年9月	1.7%	22.4%	53.4%	19.0%	3.4%
平成30年12月	5.3%	19.3%	45.6%	24.6%	5.3%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは47.5となった。前回調査より5.5ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		51.3	47.9	49.2	53.0	47.5
	家計動向関連	46.8	44.9	48.0	49.3	44.2
	企業動向関連	56.3	46.9	46.9	59.4	51.7
	雇用関連	70.0	81.3	65.0	60.0	60.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	1.7%	28.3%	43.3%	26.7%	0.0%
平成30年3月	3.4%	18.6%	49.2%	23.7%	5.1%
平成30年6月	5.1%	16.9%	50.8%	23.7%	3.4%
平成30年9月	10.3%	17.2%	50.0%	19.0%	3.4%
平成30年12月	3.4%	16.9%	47.5%	30.5%	1.7%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは49.1となった。前回調査より1.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		58.3	55.5	51.3	47.8	49.1
家計動向関連		56.3	51.5	49.2	44.7	48.5
企業動向関連		60.5	62.5	54.2	50.0	50.0
雇用関連		65.0	60.0	55.0	60.0	50.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	8.3%	28.3%	53.3%	8.3%	1.7%
平成30年 3月	3.6%	32.7%	45.5%	18.2%	0.0%
平成30年 6月	3.6%	17.9%	60.7%	16.1%	1.8%
平成30年 9月	0.0%	14.0%	66.7%	15.8%	3.5%
平成30年12月	1.8%	17.5%	61.4%	14.0%	5.3%

### ④ 県南地域

景気の現状判断DIは50.0となった。前回調査より3.9ポイント低下し、横ばいを表す50となった。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.0	50.9	47.9	53.9	50.0
家計動向関連		47.2	48.6	46.5	49.3	46.4
企業動向関連		55.3	52.9	50.0	59.7	55.6
雇用関連		50.0	60.0	50.0	65.0	55.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	1.7%	20.0%	58.3%	16.7%	3.3%
平成30年 3月	1.8%	21.1%	59.6%	14.0%	3.5%
平成30年 6月	0.0%	20.0%	56.7%	18.3%	5.0%
平成30年 9月	1.7%	24.1%	65.5%	5.2%	3.4%
平成30年12月	0.0%	15.5%	70.7%	12.1%	1.7%



⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは44.0となった。前回調査より3.4ポイント低下し、横ばいを表す50を19期連続で下回った。

表2-9 景気の現状判断DI

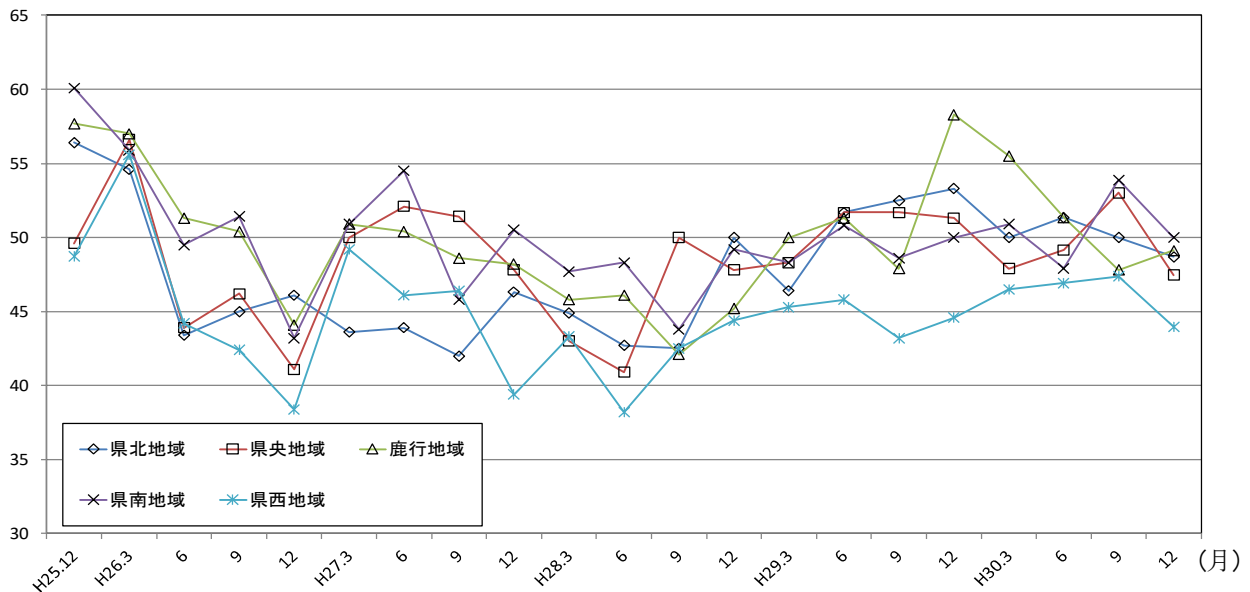
分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		44.6	46.5	46.9	47.4	44.0
家計動向関連		38.2	44.7	45.6	42.9	40.4
企業動向関連		48.7	46.1	46.1	54.4	46.1
雇用関連		75.0	60.0	62.5	55.0	60.0

表2-10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	0.0%	21.7%	46.7%	20.0%	11.7%
平成30年 3月	1.8%	21.1%	59.6%	14.0%	3.5%
平成30年 6月	1.8%	17.5%	54.4%	19.3%	7.0%
平成30年 9月	3.5%	17.5%	52.6%	17.5%	8.8%
平成30年12月	3.4%	15.5%	48.3%	19.0%	13.8%

(DI)

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	25.12	26.3	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.03	30.06	30.09	H30.12月
県全体	54.3	55.9	46.4	47.0	42.6	48.9	49.4	46.8	46.5	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8
県北	56.4	54.6	43.4	45.0	46.1	43.6	43.9	42.0	46.3	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7
県央	49.6	56.5	43.9	46.2	41.1	50.0	52.1	51.4	47.8	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5
鹿行	57.7	57.0	51.3	50.4	44.1	50.9	50.4	48.6	48.2	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1
県南	60.1	55.9	49.5	51.4	43.6	50.9	54.5	45.8	50.5	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0
県西	48.7	55.6	44.2	42.4	38.4	49.2	46.1	46.4	39.4	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0
全国	55.7	57.9	47.7	47.4	45.2	52.2	51.0	47.5	48.7	45.4	41.2	44.8	51.2 51.4	50.6 47.4	49.9	49.6	53.9 53.9	51.7 48.9	48.2	47.3	48.0(原数値) 48.0(季節調整値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.0となった。前回調査より0.9ポイント低下し、横ばいを表す50となった。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		51.3	51.8	50.0	50.9	50.0
家計動向関連		51.4	49.3	47.0	50.7	45.6
企業動向関連		52.6	56.6	56.6	51.3	57.9
雇用関連		43.8	50.0	43.8	50.0	50.0

表2-12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	3.3%	18.3%	58.3%	20.0%	0.0%
平成30年 3月	0.0%	24.6%	61.4%	10.5%	3.5%
平成30年 6月	0.0%	21.4%	58.9%	17.9%	1.8%
平成30年 9月	3.4%	17.2%	60.3%	17.2%	1.7%
平成30年12月	5.3%	17.5%	54.4%	17.5%	5.3%

### ② 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.8となった。前回調査より3.1ポイント低下したものの、横ばいを表す50を4期連続で上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.0	53.8	50.8	53.9	50.8
家計動向関連		48.7	52.6	49.3	50.7	53.2
企業動向関連		48.4	51.6	50.0	60.9	46.7
雇用関連		65.0	75.0	65.0	55.0	45.0

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	1.7%	18.3%	60.0%	18.3%	1.7%
平成30年 3月	3.4%	30.5%	47.5%	15.3%	3.4%
平成30年 6月	3.4%	23.7%	49.2%	20.3%	3.4%
平成30年 9月	5.2%	24.1%	53.4%	15.5%	1.7%
平成30年12月	5.1%	20.3%	47.5%	27.1%	0.0%

### ③ 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは48.7となった。前回調査より1.7ポイント低下し、横ばいを表す50を6期ぶりに下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年 12月	平成30年 3月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月
合計		55.0	56.8	51.3	50.4	48.7
家計動向関連		51.4	55.9	50.8	49.2	47.0
企業動向関連		59.2	59.4	52.8	52.6	52.6
雇用関連		65.0	55.0	50.0	50.0	45.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	5.0%	23.3%	60.0%	10.0%	1.7%
平成30年3月	5.5%	25.5%	60.0%	9.1%	0.0%
平成30年6月	1.8%	21.4%	58.9%	16.1%	1.8%
平成30年9月	1.8%	15.8%	66.7%	14.0%	1.8%
平成30年12月	1.8%	15.8%	63.2%	14.0%	5.3%

### ④ 県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは47.8となった。前回調査より3.9ポイント低下し、横ばいを表す50を5期ぶりに下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成29年 12月	平成30年 3月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月
合計		51.7	53.5	51.3	51.7	47.8
家計動向関連		50.0	55.0	50.0	47.9	50.0
企業動向関連		53.9	51.5	52.6	55.6	41.7
雇用関連		55.0	50.0	55.0	65.0	55.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	1.7%	16.7%	70.0%	10.0%	1.7%
平成30年3月	1.8%	24.6%	61.4%	10.5%	1.8%
平成30年6月	0.0%	18.3%	70.0%	10.0%	1.7%
平成30年9月	0.0%	19.0%	69.0%	12.1%	0.0%
平成30年12月	0.0%	17.2%	60.3%	19.0%	3.4%

⑤ 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.0となった。前回調査より6.6ポイント上昇し、横ばいを表す50となった。

表2-19 景気の先行き判断DI

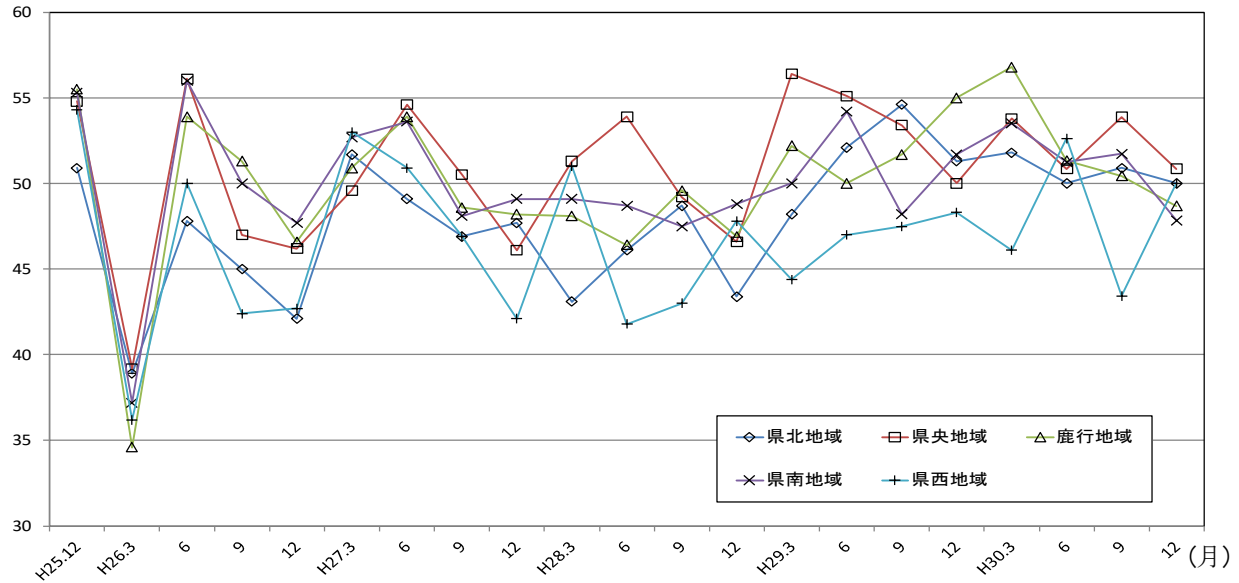
分野	調査月	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.3	46.1	52.6	43.4	50.0
家計動向関連		46.5	45.5	50.7	42.1	47.1
企業動向関連		48.7	43.4	53.9	44.1	55.3
雇用関連		60.0	60.0	62.5	50.0	50.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成29年12月	2.8%	11.1%	63.9%	13.9%	8.3%
平成30年3月	0.0%	22.8%	50.9%	14.0%	12.3%
平成30年6月	0.0%	29.8%	54.4%	12.3%	3.5%
平成30年9月	1.8%	14.0%	50.9%	22.8%	10.5%
平成30年12月	3.4%	13.8%	63.8%	17.2%	1.7%

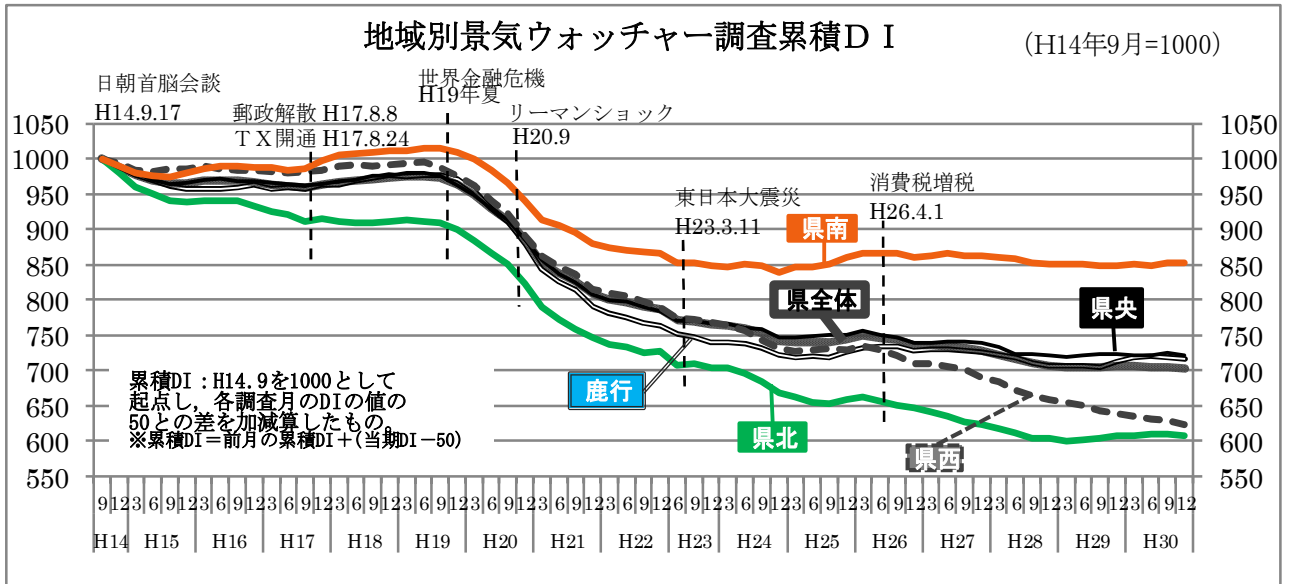
(DI)

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	25.12	26.3	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.6	29.12	30.03	30.06	30.09	H30.12月
県全体	54.2	37.1	52.7	47.1	45.1	51.6	52.4	48.2	46.6	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5
県北	50.9	38.9	47.8	45.0	42.1	51.7	49.1	46.9	47.7	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0
県中央	54.8	38.9	56.1	47.0	46.2	49.6	54.6	50.5	46.1	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8
鹿行	55.5	34.6	53.9	51.3	46.6	50.9	53.9	48.6	48.2	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7
県南	55.3	37.2	56.0	50.0	48.2	52.7	53.6	48.1	49.1	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8
県西	54.3	36.2	50.0	42.4	42.7	53.0	50.9	46.9	42.1	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0
全国	54.2	34.7	53.3	48.7	46.7	53.4	53.5	49.1	48.2	46.7	41.5	48.5	49.0	49.0	51.5	50.4	51.3	50.1	50.9	50.7	47.0(原数値) 48.5(季節調整値)

(参考) 地域別累積DI



### III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

#### (1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業 (電気機械器具)	受注案件が立ち上がり始めた。
		製造業 (電気機械器具)	前年と比べ受注額が増加している。
		製造業 (精密機器)	社内的には良くなっているが、周りは悪くなっていると思う。海外からの受注が多く、特に欧州からEV用の部品が増えている。国内は一部を除いて良い。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	受注量が増えている。
		小売業 (時計)	売上げが上がってきている。
		観光型ホテル	流通が活性化してきている。
		タクシー運転手	H30年9月頃に比べると売上げが多少ではあるが、上がっているので会社や一般の利用者の方が増えたと思う。
		ドライブイン	客数伸び率・金額伸び率ともに20~25ポイントアップしている。土産物として地場産の漬物、野菜系が伸びた様子。お天気にも恵まれた。
	企業	ゴルフ場	対前年予約実績で、4~6月98%、7~9月89%、10~12月95%と回復している。ゴルフトップシーズンになり、7~8月の猛暑でプレーができなかった方々が来場するようになっている。
		林業関係者	素材不足や、製品受注が多いことから素材の買い入れが好調である。しかしながら製品単価が急上昇することは無い。
		製造業 (化学工業)	顧客から当社への受注が増えている。顧客を訪問するとインバウンド効果がある等の声をよく聞く。
		運輸業	貨物の輸送依頼が増えている
		運輸付帯サービス業	周辺の店舗に賑わいがある。
雇用	求人開拓員	新規求職申込件数及び相談等の利用者数の増加。紹介状発行件数及び就職決定者の増加。以上のことから、景気はやや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	商店街代表者	今月の前年比と、3か月前の前年比とを比較するとあまり変わらない。
		酒・各種商品小売業	御歳暮時期のため繁忙期であるが、昨年同時期と比較すると微減のため変わらないと思う。また、運賃の値上げにより、金額をワンランク下げたり、送り先を減らしたりしている。
		コンビニエンスストア	店舗の売上げ・客数・単価を鑑みて変化が少ない。
		小売業 (弁当・惣菜店)	景気観は相変わらずといった感じだが、売上げは落ちている。
		小売業 (水産物)	売上げや客数が横ばいである。
		ラーメン店	夜の集客でお客様のアルコール飲酒量が変わらない。
		食堂	チェーン店には個人経営はどのようにしてもついて行けない。円も安く41年前の単価で (飲み物全部250円・ラーメン類600円・定食750円) 営業している。常連の方が来ているので単価を上げると言われますが、出来ません。
		旅行代理店	3か月前と当月の受注状況を前年と比較してみると傾向が変わらない。
		タクシー運転手	市内の大手企業の残業がかなり制限されています。残業手当の減少により、生活給の減少も予想され、現状維持が精一杯ではないかと思われまます。
		レジャー施設	特に景気の変動が感じられないため変わらないと思う。
		ゴルフ場	前年対比で9月の売上げは減少したが、10月、11月、12月の売上げはほぼ前年と同じである。
		写真店	お客様の動向に変化が無い。 今年の前年比と3か月前の前年比を比べると、客数 (撮影数) は、増加している (土・日・祝日) もの、平日の客数・売上げをみると殆ど伸びがない。

変 わ ら な い	企業	製造業（食料品）	受注数量は安定し大きな増減なし。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連メーカーからの受注が伸びない。一部の派遣社員の契約更新を見送った。
		製造業（電気機械器具）	3か月前と同じような生産高、売上高を推移している。
		製造業（一般機械器具）	業務量に特段の変化がないため変わらないと考えています。ただし、海外情勢によってはどうなるか不透明な状況。
		製造業（輸送用機械器具）	11月の自動車販売は各社の新車攻勢もあって前年同月比で9%弱の44万台と2か月連続で好調を維持している。また、米国や中国共にやや陰りがでてきているようであるが、中国では依然EV車の販売好調が続いている。反面、国内では直接ワーカーの人員不足が際立っており、新しい仕事を受けたいが、現状の作業を維持していくのにも苦心しており、派遣者の人件費も最低賃金とほど遠い単価ですら集められない状況にあり、固定費の高騰が収益を圧迫し始めている状況にある。
		製造業（精密機器）	半導体は落ちているようだ。
		建設業	12月初旬、他業種交流会に参加した時の様子から、総じて変化はないように感じたので景気は変わっていないと思う。
		金融業	設備投資に関しては、3か月前と比較すると増加傾向にあるが、運転資金面での事業投資が減少していると感じることから、設備の一面のみで景気がよくなっているとは考えにくい。変化なしと判断したが、良い方向に変化しつつあると思います。ただし、業種間の格差が大きく地域一帯としては見通ししづらく業種格差が開いていると感じています。
		不動産業	消費増税が決定後も、その後の支援策についての期待感があり、現段階では駆け込み需要の気配が感じられない。
		情報通信業（情報サービス業）	依然として人員不足が続いており、従来通りの顧客と仕事に変化が無い。
雇用	求人広告	特に大小含めて変化というものを感じていない。	
	公共職業安定所	前3か月の新規求人数及び有効求人数をみると、多少の増減はあるものの、ほぼ変わらない状況である。	
	学校就業関係者	景気の状況を感じられない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	お客様の購入平均金額が下がっており、必要以上の商品を買わない傾向が見受けられる。また、競合他社を含め、通常チラシ以外にイレギュラーなチラシを投入してくることが多く発生しており、購買力が下がっていることを意味している。
		スーパー	野菜・果実など一部高値になり、代替の商品がなく鍋物の消費が落ちている。その関連商品も落ちている。
		衣料品販売店	客数が減少している。
		自動車販売店	来店組数の減少・購買意欲の低下。
		小売業（酒類）	日本酒・ワイン等高級酒の売行きが例年になく良くない。飲食店忘年会も減少傾向である。
		ラーメン店	お客様が注文する時、もう一品（餃子等）の注文が少なく感じる。
		観光型ホテル	前年同期と比較し、宿泊は宿泊者数・売上げ共にほぼ横ばいであるが、日帰り客については、人数は横ばいで売上げが約1割減少しており、客単価が落ちてきている。そのため景気はやや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	コンビニ・レストラン等の閉店が多い。年末の忘年会が前年と比べて減っている。大手企業の不景気感が強まっている。
		ボウリング場	12月に入り、例年のように、団体利用の繁忙期を迎え週末に関しては一定の利用客がいる一方で、通常の利用客数に落込みが見られる。特に会社帰りで見られるグループや学生の利用が伸び悩んでいる。夏休み明けの9月と比較しても売上げが落ち込んでいる状況。歯止めをかけるための施策を現在検討している。
		美容室	売上げが上がらない。
住宅販売会社	ご来場者が少ない。		
企業	水産業関係者	例年と比べ景気上昇の要因が少ない。	
	製造業（食料品）	全体的に取引先の売上げが減少しています。	
悪	家計	スーパー	来客数が1割減った。惣菜の売行きが悪い。
		スナック	若い人達はあまりお金を使わなくなっている。
		タクシー運転手	飲食のお客様が少ない。



(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	ペット美容室	季節要因が大きいですが、スタッフが病気療養で退職。結果、忙しくなる。それイコール景気がよい、かどうかは分からない。
	企業	製造業(一般機械器具)	物作り業界全体的に忙しく仕事をしております。
やや良くなっている	家計	スーパー	消費者の買い物を見ると、財布のひもが緩くなっていると思う。石油価格の下落も要因だと思う。
		小売業	空港内施設のため、国際便が増え、それに伴って客数増加になっている。
		レストラン	茨城国体やオリンピック関係での利用が少しずつ増えてきている。
		割烹料理店	とにかく11月下旬ごろから野菜の値段が下がり始め、我々飲食業にとっては、大変ありがたいと利益率の高い状況が続いているので景気はやや良く思える。
	企業	農業関係者	周りが農家世帯であり、米等の販売代金の収入があり3か月前と比較して景気は良くなっていると思います。
		運輸業(道路貨物運送業)	荷動きが堅調であり、軽油価格も落ちついている。
		工務店	茨城空港から石岡小美玉スマートICまでのアクセス道路を整備しており、今後の発展が期待できそうです。
		サービス業(コンサルタント業)	仕事依頼が増えている。
	雇用	人材派遣業	クライアントからの引き合いが非常に増えている。
		公共職業安定所	当所管内では、有効求職者数は平成24年4月から79か月連続で前年同月を下回り、有効求人数は平成29年2月から21か月連続で前年同月を上回っていることから、有効求人倍率は1.80倍と68か月連続で前年同月を上回っている。非製造業では、新規事業所開設や新規事業立ち上げなど事業拡大に伴う求人が出ており、製造業においても工場の増設や生産設備の入れ替え・導入など設備投資が増えている。
変わらない	家計	商店街代表者	これといった変化は感じません。
		百貨店	今月の前年比と3か月前の前年比を比べると売上高はほぼ同等である。
		百貨店	希望の商品をよく検討してその上で慎重にお買物する状況は全く変わっていない。
		スーパー	厳しさは感じるが、数値状況に目に見える大きな変化がない。
		コンビニエンスストア	新聞・雑誌の売上げ減少、客単価の低下に比べ、インターネット関連の店頭受け取り・支払い増などから、店頭の商品の売上げはますます厳しくなっているが、お客様との会話などから判断すると景気自体は悪くないと思う。
		自動車販売店	消費増税に対する様子を見ている感じがする。
		農産物直売所	飲食の客数、単価が横ばいのため、売れ筋の商品の価格帯が同じような流れになっている。
		楽器販売	商品の動きに特に変化が見られない。
		レストラン	忘年会の時期になり、宴会での利用予約は動いているが、客単価等は昨年同様。また、ボーナスが出る時期ではあるが、ファミリー客等の利用単価の変動はあまりない。
		レストラン	従来と変化なし。
		バス運転手	乗客の数が変わらないから。
		タクシー会社	1台当たりの営業回数にあまり変動が見られない。
		タクシー会社	大きな変動はなく推移しています。お客様のご利用については、県内利用客に変動はありませんが、県外等からの利用客が減少したままの状態です。
		ドライブイン	景気について特に会話の中でも出てこない。お客様もインバウンドが全体の8割だったが、今はほとんどない。
		観光名所	物の消費が著しく鈍い。お客さんは高くても良い物よりも、安くても良い物を求める傾向があるので、ネット販売等が主流となっているのではないかと。
ゴルフ場	ここ1~2か月の予約状況は、天候が安定している要因もあるが、例年並であり、まだまだ景気は上向いていないと思われる。		

変わらない	家計	スーパー銭湯	通常の秋と違い暖かい穏やかな秋であったため、秋の行楽地は賑わったと思いますが、晩秋の冷たさを夕刻になっても感じない今秋は屋内施設にとっては予想外であったと思います。お客様の動向では財布の紐が緩い人とできるだけ浪費をしない人の区分がはっきりと表れてきているように思われます。良くなってきている様子の中、なり切れてない現状がここにあるのではないかと思います。
		レジャー施設	今月まで、燃料費が3か月間上昇し続けたため、景気は変わらないと思います。
		理・美容店	特別な理由は思い当たらないが、当店は、今年は例年になく1年通して忙しい年であったように思う。
		建築設計事務所	引き合いの数が変わらないし、契約に至るまでに時間がかかる傾向だ。
	企業	製造業(食料品)	弊社受注量・お客様の様子共に変化なし。
		製造業(印刷・同関連業)	お客様の動きとしてあまり変化が無い。
		製造業(金属製品)	夏以降フル稼働状態が続いている。受注残や新規案件の状況からも、暫くは現在の状態が続くと思われる。
		建設業	お付き合いする業界の変化が認められない。
	雇用	金融業	景気は回復している等の報道がありますが、当組合取引先の中小企業のお客様においては、3か月前と比べても特段の変化はなく、全体として消費意欲及び景気が上向いているようには感じられない。
		求人広告	特に特徴的な出来事がない。
学校就業関係者		企業からの求人及び求人についての問合せが増加している。しかし、求人情報の大学生給与単価については変動がないため、人手不足と雇用の実態とのアンバランス感がある。	
やや悪くなっている	家計	求人開拓員	施設を利用する求職者数に変化が見られない。
		商店街代表者	毎年11月、12月は忙しくなり少し景気が回復したように思うのがこれまでの年末でした。しかし今年は年賀状印刷の受注が減り、来店客並びに個々の印刷枚数も減り大変厳しい状態が続いております。
		スーパー	客単価が前年割れしている。菓子類が若干売上げが下がっているため節約傾向を感じる。
		スーパー	株価が下がりがりっぱなしで明るい希望が持てないのか、必要最低限の物しか買わなくなっているようだ。
		スーパー	館全体の売上げが減少。秋から冬にかけて気温も下がらず暖かい日が続いたので、重衣料がさっぱり売れず衣料品は大変厳しい。
		コンビニエンスストア	タバコ増税により、お客様の購入点数が減少しているように感じる。
		都市型ホテル	年末を迎え、対前年比で2～3割の落込みと3か月前の予想よりも1割程度低い。景気は少し落ちていると思う。
		観光型ホテル	個人客は堅調だが、首都圏からの団体客が減少している。
		旅行代理店	募集ツアーの集客が良くない。
		旅行会社	秋の行楽シーズンもバスが満車にならず空いている日が多かった。
		タクシー運転手	繁華街に出てくるお客様の人数が、やや減っている気がする。企業の接待のお客様が増えない限り、我々の景気が良くなることはないと思う。
		レジャー施設	直近2か月は、前年比で一般個人の利用者が1割程度減少しており、景気はやや悪くなってきているように感じています。
	ゲームセンター	10月、11月の前年比は、両月とも売上げは約90%、入場者数は約80%と今後飛躍的に売上げが伸びていくとは思えない。	
	住宅販売会社	ご来場されるお客様の数と質が落ちているように感じる。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	売り上げ実績などや、お客様から、反応があまり感じられない。
		製造業(窯業・土石製品)	同業他社の話を聞くと個人消費が落ち込んでおり、仕事の量が減ってきている。
製造業(精密機械器具)		3か月前と比較して、金額は低減するなどアップダウンはあるが、発注は継続してあり暫くこの傾向は続くと思います。	
不動産業		来店の数減っているの、やや悪くなっていると判断する。来年の為の準備期間(探す期間)と考える。	
サービス業(広告業)		車・住宅・結婚式等個人向けの高額商品を販売している取引先の売上げが悪く、消費税増税の悪印象からの消費低迷でかなり影響がある。年末商戦や年始の販促広告の依頼が昨年対比1割程度減っており、来年が不安でしょうがない。	
悪	家計	都市型ホテル	対前年比で比べた時、客数(利用者数)において、7ポイントも悪くなっている。



(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業	天候も穏やかな日が続き、買い物に動きやすい。ボーナスも入り、購入意欲が増しているようだ。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	この3か月の期間で担当店舗の周りで、ドラッグストアが2店、コンビニが1店、飲食店、トレーニングジムが出店している。エリア内で需要が高まっていることから景気が回復していると感じる。
		農産物直売所	昨年対比で集客が増えた。
		洋食食堂	お昼を中心に来店客数、予約等堅調である。
		運転代行	週末は忙しさが集中していましたが、現在では、平日もかなり予約が来るようになりました。
		タクシー会社	毎年今の季節が一番忙しい。
		ドライブイン	好天に恵まれたため、秋の行楽客が昨年より増加した。
		理・美容店	商品の購買意欲がある方が増えたように感じます。
	企業	製造業（電気機械器具）	新規受注の引き合いが増加している。
		運輸業（道路貨物運送業）	3か月前の業績と比べて、5%程度アップしており、前年対比も同様にアップしている。
		不動産業	忘年会シーズンなので、一時的にどこの飲食店も忙しいようです。
変わらない	家計	商店街代表者	事業者へのヒアリングでは、総じて不変の回答が多い。ただし、物販事業者からは、景気が悪いと言う声をよく耳にする。
		家電販売店	客数前年比が3か月前同様に下回っており、購買意欲が欠けていると見受けられる。
		小売業（菓子類）	去年同期と3か月前の去年同期との売上げ比率がほぼ同じである。
		小売業（薬品店）	テレビ等で聞いている賃金の上昇を感じている人は、ごく一部で全体的には変わりは見られないと思う。
		小売業（食品）	やや良くなっている様な気がするが、直売所などの売上げを見ると、変わっていない。
		小売業（書店）	お客様について買いを促しても購入にいたらず、断られるケースが多い。
		和食レストラン	夏前に一時的な回復（消費）傾向がみられたが、その後また元に戻り、今月の景気は3か月前と大きく変わっていない。客単価等にも大きな変化はない。
		割烹料理店	時期的に予約も入り忙しい時期だが、例年より予算や客単価が下がり気味で、思った程売上げは伸びない。
		観光型ホテル	利用者の予約数から見て変わらない。
		観光型ホテル	お客様の様子や予約状況を見ても3か月前と変わらないと思う。
		ゴルフ場	予約状況で判断。
		ゴルフ場	3か月前より単に、シーズンであるがため来場者が増えているかたちのため、特段景気が良くなったの来場者増加とは思えない。
		レジャー施設	冬季は、オフシーズンなので3か月前に比べて売上げは落ちるが、メンテナンスや用品の売上げ等は変わらない。
		住宅販売会社	3か月前と比べて特に変わってないと思います。
		住宅販売会社	変化が無い。

変わらない	企業	農業関係者	今年は温暖化の影響で夏から秋に季節が変わっても高温が続き、農作物が大きく育ち過ぎなどの農作物への影響が大きく、販売単価も前年度より低単価の状態が続いている。また、一般消費者の野菜の買物平均単価についても3か月前と比較しほとんど変わらない状況である。
		製造業（化学工業）	当社業績に変調なし。
		製造業（食料品）	お客様の購買の様子は明るくなってきているようだが、お歳暮の時期になってもさほど上がらない。
		製造業（食料品）	鯔缶詰ブームは続いているが、昨年の不漁で大幅に値上がりしたサンマのかば焼き缶詰の販売は、前年対比で半減していることから、低価格志向は続いている。
		製造業（ゴム製品）	売上げ金額の変動が少ない。
		製造業（鉄鋼業）	特に目立つ変動要素もなく変化はないと思う。
		建設業	好景気と言われていますが、そのような実感が無いのが実情です。
		建設業	私は建設業の仕事をしています。周りの工務店・建売業者共あまり忙しくないようです。
		運輸業（道路貨物運送業）	景気が良くなった実感がない。
		金融業	前回の調査時の売り上げ動向と現在の状況は変わらない。
		内装工事業	現状維持を保つようにやるが、いつまで体力が持つか分からない。
		サービス業	製造業・加工業において特段の需要増加に繋がる動きはなく、概ね従来と変わらない動向と考える。
		火力発電所	販売量に変化なし。
		雇用	人材派遣業
民間職業紹介業	やはり人材不足により、マッチングがかなり厳しい状況が続いている。		
公共職業安定所	有効求人、有効求職とも横ばいである。		
学校就業関係者	求人受付者数は、昨年同時期より1.4倍で増加している。この時期になっても、大企業からの求人枠もあり、人材不足が鮮明に出ているが、その他目立って良い材料がない。		
求人開拓員	ガソリン価格の上がり下がりや、異常気象による農作物の価格の変動等を毎日のようにマスコミ・新聞等で報道されているのを見ると、本当に景気が良くなっているとは思えない。		
やや悪くなっている	家計	スーパー	野菜の相場安の影響が大きく、売上げが減少。競合店との競争が激しくなっているため、チラシ特売商品を中心に単価下落傾向。
		衣料品販売店	お客様と接していると、今までよりも質の良いものを求めるお客様が多く、「価格が安いからオススメ！」だけでは、見ていただけなくなった。逆に、良質を求める分、購入単価が上がっているが、来客数がそもそも減ってしまっている。
		タクシー運転手	周りからは景気が少しずつ上向きになって来るとよく聞くが、タクシー業界では悪くなっている。利用者が減少している。地域によっても異なるが、給料が上がるようみんな一生懸命頑張っている。景気はすぐには良くなる。悪いなりにやるべきことがあるはず。良く考えたいと思います。
		理・美容店	お年寄りには亡くなっていき、人口減少分の若い人の増加はない。
		クリーニング店	この地域は年金受給者が多い。（来店者がほとんど年金受給者です。）65歳以上になると、所得に応じて介護保険も上がっている。医療費がかさむ。
	企業	製造業（鉄鋼業）	この2～3か月で、建築部品の受注が下がり、景気はやや悪い傾向にあります。
		製造業（金属製品）	仕事上ですが、日米貿易戦争の影響によって、9月頃から少しずつメーカーの生産調整が始まりました。海外輸出品については、30%位対象となった。今期中（4月頃まで）は、計画を下回る。
保険業		（株）めぶきフィナンシャルグループ（常銀）の株価が下がっている。県内株を持っている人がいる。	
悪	家計	スーパー	客数が前年割れしており、そのまま売上げが下がっている。
		日本料理店	お客さんの入りが悪くなった。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	—	—	—	
やや良くなっている	家計	洋食食堂	クルーズ船に行かれる方や、海外旅行、プチ旅行に行かれる方が多い。	
		旅行代理店	暮れの挨拶で会社訪問すると、多少明るい話題が聞こえる。全体的にマイナス指向のイメージだった3か月前とは少し違うと思う。	
		タクシー運転手	外食をする際の足として注文するお客様が増えている。	
		設計事務所	業務量の増加	
	企業	製造業（食料品）	客数・客単価とも良くなっている。	
		製造業（その他）	取引先からの新規受注の話が増えた。	
		運輸業（倉庫業）	スポット保管やスポット輸送が若干増えている。	
	雇用	公共職業安定所	有効求人倍率は、9月末（1.23倍）に対して、11月末（1.27倍）とわずかに増加している。	
	変わらない	家計	スーパー	昨年の売上げ・客数と比較してもさほど変わっていない。
			家電販売店	前年比では、3か月前と比べて変化が無い。
スーパー			今月の前年比と3か月前の前年比を比べると、客数・客単価・点数すべてほぼ変化がない状況である。	
コンビニエンスストア			来店客がほぼ固定客である。	
コンビニエンスストア			お客様の消費を確認しても変化がない。	
家電販売店			12月上旬より、PayPayが開始になり、ボーナス商戦が前倒しになりPayPay20%還元・100億円キャンペーン終了の12月14日までは、前年以上の売上げ。その後反動がきて月トータルは前年同様の売上げとなっております。	
小売業			最近の気候異常（夏の猛暑、暖冬など）にお客さまも困惑されている。必然的に重衣料の売上げにも影響が出る。また、農作物への価格の影響もあり、生活ラインの影響から、必要最低限の消費に向かう方もいると思われる。	
小売業（生花店）			売上げに目に見えるような変化はない。	
ホームセンター			客数・客単価に変化なし。安売りをしても必要な商品しか手に取らない様子。	
和食食堂			良くなっているとも悪くなっているとも感じない。	
寿司店			3か月前も今も悪い状態で変わっていない。	
タクシー運転手			日中の駅利用客が変わっていない。近くのお客様は自家用の送迎が多いようだ。	
タクシー運転手			乗車回数が以前と変わらない。利用客が変わらず増加が感じられない。夜間の飲食店からの客が増加していない。	
タクシー会社			政治が悪い。大企業のみ優先され、中小企業は景気対策されていない。	
サービスエリア			平成29年2月の茨城県内圏央道全通に伴い常磐自動車道の交通量は減少傾向にあったが、平成30年6月に外環道が開通したことにより、交通量は微増の傾向にあり、入館者も同様の傾向。各個人の購買意欲は相変わらず高い率を示しており、交通量の増加したエリアにおいては、それなりの売上げを示していることから、前回同様特段の景気の変化はないと判断した。	
ゴルフ場			例年の予約数を受けており、来場者数も昨年同期と変化なし。	
ゴルフ場			現在は忘年コンペ等賑わっているが、正月明けは落ち込むので、全体的には変わらないと判断する。	
ボウリング場			お客様の1人当たりの平均売上げ単価・ゲーム数にあまり変化は見られない。	
理・美容店			お客様とお話の中でも、特に良くも悪くもない話ばかり。低料金の店への客の流れも一段落したので、特に変わらないと思う。	
住宅販売会社			特に変化はありません。	
農業関係者			信用事業において、貯蓄の伸びが良くない。金利の問題もあるが、昨年と比較しても良い状況とは言えない。作物も特にコメの収穫量が少なく販売単価が少し良くても補うことができていない。	
農業関係者			12月期（初旬まで）の乗客数・客単価を9月期～と比較すると両者ともに減少傾向。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。	

変 わ ら な い	企業	製造業（食料品）	出荷量の変化が少ない。
		製造業（家具・装備品）	展示場（店舗）の売上げは横ばい。製造部の仕事は切れずにオーダーがあります。
		製造業（窯業・土石製品）	当社は公共事業主体としておりますので、今年は天候に左右され進捗が遅い感じがします。特に茨城は県議選や国体の関係もあるのか、新規工事はあまりできておりません。
		製造業（窯業・土石製品）	受注はあるものの人材確保が難しくなっており、人手不足感は否めない。
		製造業（非鉄金属）	受注は計画通りの水準で推移している。
		製造業（一般機械器具）	特に変化なし。
		建設業	3か月前も工事受注が多く、仕事のやりくりが大変だった。現在もその状態が続いている。限られた人数でやっているのに、工事高は変わらない。よって3か月前の工事高と同じであり、景気は変わらないと判断する。
		不動産業	問合せ、成約ともあまり変動はない。
		金融業	各業種とも特段の変化はなく、業況も横ばいの状態。不動産売買事例も活発さはなく、動きはあまりない。物件全体も大きな物件はほとんどない。土木工事、建設業等の受注状況も変わりなく、年末の季節的要因を除いても、前回とほぼ同様である。タクシー業界も相変わらず客足は伸びず横ばいである。飲食店関連では、年末の季節的要因（忘年会等の宴会）を除くと売上げ自体はほぼ変わっていない。レジャー施設においても、イベント等での集客はあるが常連客が多く、新しい顧客開拓のための努力を続けている。
		不動産業	顧客の動向から変わらないと思う。
雇 用	人材派遣業	全体的に人手不足が続いているが、変わらないと感じる。最近までの暖冬の影響で、冬の食品関係の景気がやや悪くなっている。	
	求人広告	特に変化が無い。	
	学校就業関係者	学院生の就職内定もよく、雇用状況は良い感じがするが、3か月前と特に変化は見られない。	
や や 悪	家計	農産物直売所	この冬、暖冬で野菜の生育に影響がでています。昨年は不足で高値。今年は豊作で安値。スーパーも野菜が安いので、お客様は何でもそろうスーパーに流れている。
		小売業（米穀）	今秋の作況指数が発表された数字以上に悪く、仕入れ価格の上昇が。販売に仕入れ上昇分を乗せられません。毎年、9月～11月は縁故米が出回り、静かになるのですが、今年は、例年以上に縁故米の出回りが多いように感じています。12月も餅関係が活発に動くのを期待していますが、今のところサッパリです。
		日本料理店	今月の前年比と3か月前の前年比を比べると、今月の伸びが多少下回っている。
		都市型ホテル	3か月前と比較しますと、オンハンド状況から判断して、企業と個人消費においてもご宴会縮小、開催見送りや昨年開催実施企業の閉鎖などあり、もちろん業態によると思いますが、やや悪くなっていると感じられます。個人消費も以前と違い安価なプランや料金を選ぶ傾向が見えました。クオリティの高い高額商品を選ばれる方も中にはありますが、少数となってしまいました。
		タクシー運転手	企業関係の利用度がすこぶる減った。
		テーマパーク職員	前年度2017年の3か月前からの来場者の増減と、今年度2018年の3か月前からの増減を比較すると、来場者が減っている。これは季節的な要因とはべつであるため、景気がやや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	前四半期に比べて、10月と11月に売上額が減少気味。また昨年の同時期と比較しても減少傾向にある。
悪	家計	理・美容店	売上げが下がった。



## (5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	都市型ホテル	天候不良等で3か月前が悪かったため、現状は良く感じる。
	企業	製造業（金属製品）	下期（10月）に入り、突然受注高、引き合いが増えた。現在納期に追われる毎日であるが、ロットが小さく本物ではないと考えている。
やや良くなっている	家計	家電販売店	PayPayのキャンペーンにより、お客様の購買意欲が上がっている。
		タクシー運転手 ゴルフ場	工業団地への来訪者が増えている。 予約進捗が3か月前及び前年同時期に比べ良くなっている。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	新規案件等の問合せや見積りが少し増えてきている。
		製造業（金属製品） 不動産業	受注が増えた。 消費税に関係ない一般売主の中古住宅が販売好調である。
	雇用	人材派遣業	人材募集が増えた。
		公共職業安定所 求人開拓員	求人数、求人倍率は高水準で推移している。（前年同月比で2か月連続増加） 月ごとに求職の来所者が減っている。状況確認をすると、就業が決まっていたり、より良い条件の仕事を探していることから、比較的余裕があるように感じる。
変わらない	家計	商店街代表者	良くなる要因が何もない。
		スーパー	来店客数、単価、買上げ点数などほぼ同じである。
		コンビニエンスストア	来店客の購買行動など、3か月前と比較して変わっている状況は見受けられません。
		ホームセンター	お客様の消費行動に大きな変化はない。客数・客単価ともあまり変わらない。
		レストラン	売上げや人数を見ても変わらない。
		和食レストラン	変わらないから。
		旅行会社	悪くなってる感じはしないものの、良くなっている感じもしない。
		タクシー運転手	ボーナス支給があったにも関わらず、週末を除き3か月前と売上げは変わらない。
		タクシー会社	特に変化を感じない。
		ドライブイン	お客様との何気ない会話、日々の売上げ、客単価の推移状況から総合的に判断。
		ドライブイン	客数・単価とも大きな変化はなく、景気が上向いている実感は感じられない。ボーナス需要に期待したい。
		ゴルフ場	予約状況より、変わらないと判断した。
		パチンコ店	売上げは横ばい。
		理・美容店	会話に変化は見られない。
建築設計事務所	相変わらず忙しい人は限られていて同じ人だ。一方忙しいことが景気の良し悪しと直接連動しない時代でもある。		
住宅販売会社	10月は昨年同様の来場があったが、11月から12月現在まで来場は少なく、昨年を下回っているため、景気は横ばいと判断する。		
変わらない	企業	製造業（輸送用機械器具）	特に変化は見られない。
		建設業	特に変動を感じない。
		建設業	現在、受注している仕事量が少ない事と民間の工事の規模も小規模な工事が多い。
		金融業	どの業種に関しても、前回と大きな変化は見られない。
雇用	学校就業関係者	求人数は昨年同様多いが、本給の水準は変わらない。	
やや悪くなっている	家計	自動車販売店	販売台数が減少している。
		農産物直売所	3か月前と比較して、青果物の価格が下がっているが、1品多く買おうとするお客様が少ない。青果物の価格が下がっているので、農家の手取りが下がっている。
		日本料理店	例年と比較して、12月の多忙期にかかわらず、予約や来客数が伸びてこない。宴会等が少なく感じる。
		飲食業	お客の単価が低く感じる。
		旅行代理店	燃料費も高いですが、特に老人の財布が開かないです。お金を出すのを渋っている。年金が入ったら支払いますという。
		レジャー施設	来場者数の減少や団体様の予約状況で判断した。
	企業	農業関係者	野菜の値段が安くなってきている。
		製造業（印刷・同関連業） 製造業（化学工業） 製造業（電気機械器具）	受注減と単価の下落が止まらない。 スマホ用部材の受注が落ちてきている。 受注増による人員増の要請は減少している。
雇用	求人広告	クライアントの様子から、大手企業と取引をしている会社の景気状況は変わらない様子だ。ただ、地元の仕事をしている会社は、軒並み良い話を聞かなくなった。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	商店街にあった大型スーパーの移転から、不特定の人通りがなくなり目を追うごとに効いてきている。
		スーパー	お客様の来店頻度、買上げ点数、単価全て悪化している。
		衣料品販売店	客数の減少及び他地域の流出が多い。
		製茶販売	以前より財布の紐が固くなったと思う。余計なお金を使ったがらなくなった。商品も1ランク安い物を買う傾向にあると思う。
	クリーニング店	ボーナス時期にもかかわらず品物の出が良くない。	
	企業	製造業（電気機械器具）	受注量の減少より判断。
製造業（窯業・土石製品）		前回の3か月先の景気の質問にやや悪くなると答えましたが、やはり予想以上に悪いです。これは当業界の構造的な問題なのですが、なんとか業態を変えながら仕事にだけ専念しておる現状です。しかしこの業種は中国との競争、特に価格競争には太刀打ちできないのが悪くなっている理由です。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（電気機械器具）	受注が好調である。
		製造業（電気機械器具）	前年と比べ受注額が増加する見込み。
		製造業（精密機器）	一部を除いて良くなっている。（中国向けのEV用の新型の量産） 今年は半導体は減るが、EV用の量産（海外メーカー）が始まるので、照明（LED用リフレクター）等が良くなる。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年度末に向かって受注量が増えている。ただし昨年と比較すると減少しているように思える。
		小売業（時計）	少しずつではあるが、物を買う動きがある。
		ラーメン店	パチンコ産業が低下状態から発展することが無くなったので、日本のギャンブル・ポートレース・競輪といった客層が急増するとみられる。
		レジャー施設	来年に元号が変わり、その関連企業の景気が良くなり相乗効果が期待出来ること。また、単年度ではあるが、茨城国体が開催され人の動きもあること。暖冬（季節的要因）が予想されること。米国が中国への経済制裁緩和傾向にあることなどの諸要因を想定して、やや良くなると思う。
		ゴルフ場	対前年比で、1～3月の予約状況は良くなっている。
	住宅販売会社	消費税が上がるため。	
	企業	林業関係者	年明けの見通しも現状と変わらず好調を維持すると考えている。
製造業（食料品）		先行注文は増加。人手不足により対応できない状況になっている。	
製造業（化学工業）		顧客から増産や設備投資の話をよく聞く。	
金融業		設備資金が増加傾向にあります。設備も様々なものがあり、一概には言えませんが、設備を見送っていた時期もありますので、その意味においては良化傾向にあるものと判断します。ただし飲食業に関しては、改善の見込み無く低迷の一途であると感じております。	
変わらない	家計	商店街代表者	良くなる材料も、悪くなる材料も思いつかない。
		スーパー	年号が変わることにより、イベントは増えると思うが、企業では変更により備品等の切替えて経費コストが多く発生する。増税の面からも、機械の切替え経費問題もあり、増税あおりでの消費増といっても食品業界は増税直前にならなければ動きは少ない。
		スーパー	変わらないと言うより、ギリギリ前年並みではないかと思う。特に食品は魚も含め値頃で良い商品が少ないため。消費は落ちる。
		酒・各種商品小売業	良くなる要因が見つからない。
		自動車販売店	この地域では自動車は生活の足であり、必要な時期に購入する意識が強く、税制が大きく変わる来年度までは、特に変化は見られないと思われる。
		小売業（酒類）	思った程景気は良くない。アルコール飲料離れも加速している感じを受ける。
		小売業（水産物）	周辺で景気の良い話題は聞かない。
		スナック	景気が良くならないので、みんな不安になり消費が減ると思う。
		食堂	個人で経営している方々も同じだと思えます。
		観光型ホテル	年度末や増税を迎えるにあたり、物流の流通が活性化すると思う。
		観光型ホテル	前年同期と比較し、宿泊予約は好調であるが、日帰り利用の予約も例年並である。これらの状況から、3か月先の景気は変わらないと判断する。
		タクシー運転手	市内の人口減少がかなり進んでいる状況です。人口減少により、景気の先行きの不安が拭い切れないと思います。
		ドライブイン	ガソリン代によほどの高騰が無ければ、「ドライブに行こう」となると思う。増税に向けて賃金がアップにならないと行楽・娯楽への予算は後回しになると思う。
		ゴルフ場	国体関係で期待したいが、ホテルの予約は思った以上に伸びていない。
		ゴルフ場	特に大きく変わる要因が見当たらない。
ボウリング場	年度末の団体利用客はある程度見込んでいるが定期的に利用する常連客が増加する見込みも少なく、通常の利用客についても消費増税を半年後に控え、買いだめできるサービスであるともいえないため、景気が良くなっていると感じられるレベルまでお客様が多く来店されるだろうと予測することは、現状を見る限り難しいと思う。		
写真店	ガソリン代等の値上がりにより家族で出掛ける回数を3回のところ2回にしているという方の話を耳にします。受験生を持つ家庭では、受験関連（塾・写真）にお金が出るので、外食等を控えていると言っています。		

変わらない	企業	水産業関係者	変化要因が現在のところ無い。
		製造業（一般機械器具）	3か月先においても特段の要因はないため、変わらないと考える。
		製造業（輸送用機械器具）	3か月後大きな変化は見られないと想定される。
		建設業	12月初旬、他業種交流会に参加した時の様子から、総じて変化はないように感じたので景気は変わっていないと思う。
		不動産業	大きな消費は飛びつくことなく、じっくりと商品比較し検討すると思われます。
		運輸附帯サービス業	消費税アップで、消費が鈍る風評ばかりである。
	雇用	求人広告	良い所もそうでないところも今後の状況を見定めようと静観しているように感じる。
	公共職業安定所	有効求職者は前3か月平均で28%減少しているが、有効求人数はほぼ変わらない状況で、企業の採用意欲は高い状態が継続している。	
	学校就業関係者	判断材料がありません。	
	求人開拓員	新規求職申込件数及び相談等の利用者数の増加や紹介状発行件数及び就職決定者の増加の状況がしばらく続くと判断。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	来客数が減った。原因がわからない。
		コンビニエンスストア	消費増税・タバコ増税が心理的に影響を与えてくると思われる。
		衣料品販売店	若年層の買物が減少している。
		小売業（弁当・惣菜店）	売上げ自体の伸びは期待できず。そればかりか、人件費などの経費の上昇が見込まれ収支は悪くなる予想。
		旅行代理店	3か月先の受注状況が前年と比較して落ち込んでいる。
		タクシー運転手	毎年ではあるが、1月・2月は利用される方が少ないので来年も同様かと思われる。
	企業	製造業（電気機械器具）	受注が伸びない状況が当面続く見込みである。
	製造業（食料品）	10月頃から売上げが減少しており、今後も当面続くのではないかと思う。	
	製造業（電気機械器具）	年度末に向け、生産数及び売上高が減少する。	
	運輸業	海外の景気に対する良くない報道等で、来年度の景気が悪化するのではと見ている顧客が多い。	
悪	家計	ラーメン店	子どもに対しての教育費・小遣い等が重荷に感じられるようになった。
		タクシー運転手	大手企業の受注減少。接待が減っている。
		タクシー運転手	様々な企業がお金を使わない。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	ペット美容室	人と動物の関係がやっと30年前のヨーロッパ・アメリカに近づけている気がする。生体(子犬・子猫)の販売は私は賛成していないが、(毎日殺処分の命がいっぱいあります。茨城県は10年間ワーストワンでした。)捨てられた子、殺処分を待つしかない子たちを積極的に求める心ある方が増えております。そういう方達は一生懸命その子達を愛します。結果、病院へもきちんと行く常識を持ち、その子たちの食事管理をしっかりし、家族としての高い認識のもとに生涯接します。わかりますか?そういった要因は景気をも上向きにしてくれると思います。
		住宅販売会社	消費税増税の影響
		不動産業	新築引渡しや消費税増税も控えるため、賃貸・売買共に今月より良くなると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	来年秋に消費増税が予定されており、駆け込み需要が増えてくるのではないかとと思う。
		小売業	店のブランド転換により売上げ増が見込める。
		レストラン	茨城国体やオリンピック関係での利用が少しずつ増えてきている状態が今後も続くと思える。
		割烹料理店	平成という時代が終わろうとしているので、世間一般的にそわそわ感があり、物の買い替えなど全体の景気は上がると思う。
		バス運転手	来年は国体があり、準備期間中に大勢の人が来ると思える。
		タクシー会社	市中に建設中の店舗等が数箇所みられるので、設備投資が活発になればお金も動くと思える。
		ドライブイン	少しは景気の良い話が出たらと思います。このまま変わらないのかも知れませんが期待したい。
		ゴルフ場	改元や消費税増税に伴う諸施策等、経済活性化の期待感から景況感は改善されるものと思われる。
	レジャー施設	上昇し続けた燃料費が下落してきており、今後、やや良くなってくると思います。	
	企業	製造業(一般機械器具)	いつまでも良いときは続かないと思うのと、世界の安定が心配。
サービス業(コンサルタント業)		3か月先まで、仕事依頼が続いている。	
雇用	人材派遣業	引き続き受注は安定すると思う。	
変わらない	家計	商店街代表者	悪いまま変わらないと思うが、3月頃から元号の表記のゴム印の特需があるかも知れない。昭和から平成に変わる時は、印鑑屋はパソコンが普及しておらず大変忙しかったが、今度はどのくらいの需要があるか分からない。
		百貨店	3か月先もトレンドから見て、同等の推移であると想定される。
		百貨店	今までの流れと過去を見てもあまり変化が無いため3か月先も変わらないと考えたが、来年10月の増税に対しては駆け込み需要はあると考えている。
		スーパー	良くなる要因が見当たらない。消費税増税の報道はマイナスに働くが、3か月くらいでは変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	時間帯別の客数で、朝の客数が他の時間帯に比べ増えてきており、人の動きが客単価の低下をカバーすると思う。ただし暖冬にならないことが前提である。
		自動車販売店	消費税とそれを取り巻く税制がきちんと決まるまで様子を見ている感じがする。
		農産物直売所	飲食の予約・単価が横ばいのため、ギフトの予約も平年並み。
		楽器販売	未だ将来の見通しが不透明。
レストラン	予約の動きや利用状況に大きな変化はないように感じる。新年会・歓送迎会などの予約が数件あるが、単価の変動は無い状況。		



変 わ ら な い	家計	レストラン	従来と変化なし。
		都市型ホテル	現在の予測では良くなることは難しいと思われるが、これ以上の落ち込みはないと思う。
		観光型ホテル	進捗状況にはあまり変化は見られない。
		旅行代理店	先行予約も鈍化傾向につき、景気は変わらない。
		タクシー運転手	このところの燃料費高騰で利益率は減少傾向。なんとかその分を売上げでカバーして現状維持に努めたい。
		タクシー会社	茨城国体の影響で、県内外の関係機関のご利用を期待していましたが、大きな変動はなく県内常連客の利用は変動ないものと思います。県外からのご利用客が伸びる傾向が見えませんが、大きな変動はないものと思います。
		ゲームセンター	消費税の増税等今後消費者にとって不利な材料しかないため、景気は現状維持もしくはやや下降気味になると思われます。
		スパ・銭湯	寒い冬の到来は期待できない様子であり、報道も暗いことばかり多中、消費税2%引き上げの報道が多くなってくるのが予想され、景気が良くなる見込みは薄いと思います。
		理・美容店	希望を込めて、来年も忙しい年になると良いと思います。
	建築設計事務所	来年こそ良い年に！との期待を感じるが、働き方改革や、大型休日と経営側への課題は多い。現実には現状維持ではないかと思う。	
	企業	製造業(食料品)	年末需要はあるものの、大きな変化はない予定。
		製造業(印刷・同関連業)	現状として、景気変動の様子が見えていない。
		建設業	特段内包する変化が認められない。
		運輸業(道路貨物運送業)	荷動きは今後とも堅調に推移すると予想される。
		金融業	今後3か月程度では、特段の変化は無きものと感じております。
	雇用	公共職業安定所	景気の先行き指標である新規求人数は前年同月比で増加傾向にあったが、平成30年9月から2か月連続で前年同月を下回った。新規求人数の増加傾向が一段落しており、単に踊り場にあるのか、それとも再度増加傾向に戻るのか、あるいはこのままピークアウトするのか注視しているところである。一部の事業所からは米中貿易摩擦や来年10月の消費税率引き上げを不安視する声も聞かれるが、求人数にはまだそれほど影響は感じられない。
		学校就業関係者	新卒人材を求めるニーズの増加とそれに対する支援(給与単価増や奨学金助成制度の活用)が増加すれば期待できる。

やや悪くなっている	家計	スーパー	自店舗近くでも廃業する店があるので全体的には悪くなるような気がする。
		スーパー	米中摩擦や北朝鮮問題，それにあいまいな消費税の増税時の還元の仕方が話題になっており，将来に希望が持てなくなっている。
		スーパー	厳しさは今後も続くと思われる。消費税増税の報道等もあり，お客様の消費動向がシビアになっていくように思われる。
		スーパー	準核店舗であるナショナルチェーン店が退店したため，館全体の集客にマイナスの影響がでてくるとみている。
		都市型ホテル	売上げ減少傾向の底打ちが見えていない。
		旅行会社	お正月や春の行楽シーズンに予約が入らず閑散としている。
		観光名所	国はキャッシュレスを進めているが，それがどの様に景気に影響するのか分からない。中小だとキャッシュレスにしたことによる経費増加も不安の一つである。
		レジャー施設	直近で景気がやや悪くなっているように感じており，今後も消費税増税を実施する方向性の影響から，やや悪くなるように感じます。
	企業	農業関係者	農閑期となり，農産物等の出荷が少なくなり収入は減少すると思います。
		製造業（印刷・同関連業）	価格競争や資材高騰により，やや悪くなると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	仕事の量が増える気配が全くない。
		製造業（金属製品）	以前から原材料の入手難・人手の確保の問題はあったが，ここにきて深刻さが増している。この調子では仕事が停滞してしまうのではないかと心配している。
		製造業（精密機械器具）	今の世界情勢，特に米中の貿易戦争などにより，株の暴落など予断を許さないと思います。IMFの今後5年間の景気見通しでも，成長率は減速傾向としています。
		サービス業（広告業）	消費税増税のインパクトが強すぎて，良くなる理由など見つからない。
	雇用	求人広告	年号変更，消費税増税。最近変化があるたびに悪化する。
		求人开拓員	米中間の貿易摩擦，イギリスのEU離脱，フランスの大規模デモ等主要大国での政治的課題が景気のリスクの要因として存在し，世界的規模でこれらのいずれかによる景気動向への悪影響が出てくるものと思われる。
	悪	-	-

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	住宅販売会社	消費税増税の影響があると思います。
やや良くなっている	家計	スーパー	野菜出荷状況が前進しているため年明け後は、相場回復の予測をしている。
		家電販売店	消費税増税年となるため、需要は高まるものと考えられ、流通業界は活発な動きをすると予想する。
		農産物直売所	毎月、昨年対比で集客が増えている。
		洋食食堂	公共事業等も引き続き行われる予定（水道工事・ガス工事・下水道工事・舗装工事）であり、人の流れが見込めそう。
		ドライブイン	茨城国体に向けた経済効果が期待出来る。
		理・美容店	建設関係、製造業などに従事している方からは、仕事が忙しいというお話をよく伺っています。
	企業	製造業（電気機械器具）	社内的には生産性向上で、高収益化。あちらこちらで景気回復のきざしも感じられる。
不動産業		建築関係は、消費税増税前の発注で少し動きが良くなると思います。	
サービス業		特定の企業で不祥事が発覚しているが、不買等に繋がる動向は認められず、今年度いっぱいには消費税率のアップによる駆け込み需要と例年通り年度末の予算消化があるぐらいと考える。	
変わらない	家計	商店街代表者	これと違って景気の変化は感じられない。消費税増税前だからか、住宅や賃借住宅の建設が増えているように感じる。
		コンビニエンスストア	担当店周りで、客数は割れているが、客単価は上がり、売上げ前年比が100%前後を推移。売上げ自体がそこまで変わっていないことから景気は変わらないと感じる。
		衣料品販売店	季節以外では変わらないと思う。
		小売業（菓子類）	こここのところ月別の売上げは去年と同じくらいである。この先変わる要因はないと思われる。
		小売業（書店）	変わる要素が見当たらない。
		和食レストラン	個人消費動向は変化なく、来年の消費税引き上げも視野に各家計は消費を抑制している。当社の外食産業は個人消費動向の影響を受けやすく、現状では大きく変化する要因がない。
		割烹料理店	お客様の話や様子などからは、良くなるのがうかがえない。
		観光型ホテル	先の予約状況を見ても3か月後も変わらないと思う。
		運転代行	寒い時期になり、外出する機会が少なくなります。
		ゴルフ場	予約状況で判断。
		ゴルフ場	特に変化がありそうな風潮は見られない。
		レジャー施設	商談数などあまり変化がない。
		クリーニング店	将来に不安を抱えているので、出費は控えている。
		住宅販売会社	変化が無い。

変 わ ら な い	企業	農業関係者	平均気温の上昇が、今後の農作物の販売単価へも引き続き影響が大きく、今後も農産物の低単価が心配される。
		製造業（化学工業）	当社業績に変調なし。
		製造業（鉄鋼業）	新規の受注もやや増えてはいるが、全体的な受注が減少傾向であるため景気は変わらないと思います。
		製造業（食料品）	業種はあるだろうが、進物の機会はそうは増えないのではないかと。
		製造業（食料品）	米国の株価低迷が日本に影響しており、当面は景気浮揚に結びつく要素がない。
		製造業（ゴム製品）	3か月発注（見込み）を客先から貰っているが変動が少ない。
		製造業（鉄鋼業）	欧州の動きが気になるが、大きな変化はないと思う。
		建設業	国体・オリンピックと好景気要因と言われて久しいのですが、なかなかそのような状況ではないようです。
		建設業	一般的に新築件数が減っているのでも、売上げが落ちます。カバーするために、エクステリア製品・フェンス・テラス・ベランダ・カーポート・サンルーム・車庫・ガレージなど売れる商品を多くしています。
		運輸業（道路貨物運送業）	すぐに実感できないのではないかと。
		運輸業（道路貨物運送業）	前年同期（12月～3月）の業績推移をみると、横ばい状況で今期も同様と思われる。
		金融業	顧客の様子からやや良くなる顧客と、やや悪くなる顧客の二極化が進むと思われる。相対的には増加して変わらない状況になると思います。
		保険業	お金を使わなくなっているように見える。
		内装工事業	新築・リフォームなどの仕事が減った。また大工さんの高齢化による廃業で受注激減。
		火力発電所	需要に伸びなし。
雇用	民間職業紹介業	人材不足の状況は変わらない。	
	公共職業安定所	有効求人倍率は高止まりの横ばい状態が続くと思料する。	
	学校就業関係者	目前の3か月は、企業の人事担当の様子から人材不足が見込まれ変化はない様子。その後の消費税、オリンピックを目前に心配要素が感じられる。	
	求人开拓員	慢性的な人手不足が改正されなければ、景気は上を向かないと思う。外国人の雇用も一つのきっかけとなると思うが、その後のケアも考えておかなければならない。開拓に製造関係の事業所に伺うと、まず人員の確保、それに比例して賃金が引き上がり、設備投資もままならず、仕事は受注したいが・・・どうしようもないとのこと。	
やや悪くなっている	家計	小売業（薬品店）	個人商店以外のショッピングモールでも、古いところには、人の入りは少なくなっている。
		小売業（食品）	ソフトバンク（子会社）の上場の結果は良くなかった。
		小売業	消費税が上がることや、その他先行きの不安要素が多いので、財布の紐を引き締めるのではないかと。
		観光型ホテル	利用者の予約数から見て少ない。
		タクシー会社	例年の傾向から、やや悪くなると判断する。
		タクシー運転手	現状の仕事体系では、いつになっても良くならないと思う。仕事内容を大幅に改善しないとだめ。若い人たちでも安心して仕事ができるよう、作業環境を変えなければ一緒だと思ふ。
企業	製造業（金属製品）	日本から中国へ、日本からインド・メキシコなどに向けての商品は30～40%減少する見込み。生産調整次第の動きとなるのであまり期待できない。	
	雇用	人材派遣業	この茨城「鹿行地区」において、2020年のオリンピックに伴う設備投資の影響もない環境下にあると感じ決して景気が上向き状況でなく、逆に下向き方向と感じます。人手不足の原因は「増産」に伴う要因でなく、高齢者対策である。よって景気影響ではない。
悪	家計	日本料理店	消費税増税が決まり、さらに財布の紐が固くなる。
		理・美容店	今の若い人は、車、携帯とお金が出ていってしまいお小遣いが少なくなっているのでも、安い1000円カットへ行ってしまう。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	寿司店	年末年始は、季節要因ではあるがいくらか忙しいです。
		旅行代理店	現在の景気と同じく3か月先の状況は好転するのではないかとの声が聞かれる。平成も終わり新しい年号に対しての期待度もあるのではないか。
		タクシー運転手	近くに大型流通倉庫がオープンしたので、やや良くなると思われる。
		タクシー運転手	お客様一人当たりの乗車距離が長くなった。
		テーマパーク職員	弊施設では予約制の受け入れ態勢のため、前年度の3か月後と今年度の3か月後とで、12月時点の予約数を比較すると、今年度の方が現時点での予約が多い。特に団体や企業様での旅行やレクリエーションとしてのご予約が多いように感じられる。
		住宅販売会社	建設業として、増税前の駆け込みを感じる。
	企業	建設業	仕事の見積り依頼も多く、3か月後もこの状況は続くと思う。当社の工事量としては変わらないだろうが、周辺の状況を加味すれば景気はやや良くなっていると思う。
	雇用	公共職業安定所	求人数は増加する傾向にあり、求職者数は減少する傾向であることから、やや良くなると思われる。
変わらない	家計	家電販売店	特に大きな変化は期待できない。
		スーパー	今の横ばいトレンドが（良くも悪くも）変化する要因は見当たらない
		コンビニエンスストア	来店客がほぼ固定客である。
		コンビニエンスストア	この1年間特に変化がないので、継続すると思う。
		農産物直売所	異常気象に左右されると思います。
		小売業	平成の終わりをマスコミも伝え、新元号への期待感から明るい傾向はある。反面、10月に控える消費税増税に対しての不安もあり、消費は堅実な推移をたどると思う。
		ホームセンター	先行きに明るいニュース等何もない。
		小売業（米穀）	良くなる要素が見当たらないですね。春以降の仕入れ状況次第では、更に悪化する可能性があります。（モノが足りない）
日本料理店	材料費（鰻）高価格にて利益率が減少傾向です。		

変 わ ら な い	家計	洋食食堂	2019年の予約状況は、1月～3月までは団体貸し切りの予約が入っている。旅行会社の予約もインターネットのおかげで予約が入るようになった。
		タクシー運転手	今後消費税が上がるので、皆怪評してる。
		タクシー運転手	土浦地区の住宅増加や人口増加に期待出来ない。自社タクシーチケット契約各社の利用が横ばい。
		サービスエリア	常磐自動車道においては、交通量や入館者数の変動が今後も生じるものと想定されるが、お客様個人の消費傾向についてはそれほど変化はないと思われ、今後3か月間においても特に影響のある事象は見当たらないことから、景気動向についてはとどろき変化なしと判断した。
		ゴルフ場	天候に左右される業態であるが、予約ベースでは例年並みの予約をもらっている。
		ゴルフ場	まだ予約も動き出しておらず、これといった要因も話題に出てない。変わらないのではと思われる。
		ボウリング場	お客様との会話の中でも、景気について良い話も悪い話も出ておらず、3か月先の景気についても変化はないと推測しました。
		レジャー施設	現時点で判断できる材料がない。
		理・美容店	3か月先ぐらいでは、良くも悪くもなっていないと思う。10月の消費税で変わるかも知れないが、3か月先では特に変わりはないと思う。
		企業	農業関係者
農業関係者	お客様全般における「買い控え傾向」は依然として続いている。		
製造業（家具・装備品）	変わらずというより、良い方にも変わってもらいたい。現代人（昭和30年代・40年代の方）の考え方が大変変わりました。難しくなりました。		
製造業（その他）	人手不足で、あまり仕事を入れられないと思う。		
製造業（窯業・土石製品）	引き続き人材不足・人手不足による影響が続くと思われる。		
製造業（一般機械器具）	変わるような材料が見当たらない。		
運輸業（倉庫業）	倉庫の許容スペースに限りがあり、なおかつ、運輸、人手も余裕がない。		
金融業	2020年の東京五輪に向けて首都圏ではオリンピック景気に沸いているが、当地区においてはその恩恵を受けている企業の話はほとんど無い。建設業、土木工事業等の工事受注の状況、飲食業の来店客、タクシーの乗車客、不動産業界の動き等を勘案しても大幅な変化はないと思われる。		
不動産業	顧客の動向から変わらないと思う。		
雇用	人材派遣業	派遣の受注は増えているが、企業の受注増ではなく、人材不足からの派遣受注なので、景気としては変わらないと思う。	
	求人広告	現状の変化が見られない。	
	学校就業関係者	あまり変化するようには感じられない。	
やや悪 くな って い る	家計	スーパー	人口減少のため、やや悪くなると判断する。
		スーパー	客単価が下がっている。
		家電販売店	高単価商品の販売台数が少ない。暖冬の影響により暖房商品の動きが鈍い。
		小売業（生花店）	来年の消費税増税が消費にまわらず、貯蓄に向かっている。一部の大手企業だけが恩恵を受ける形になってくると思われる。
		和食食堂	売上げが上がる要素もなく、給与に反映されるとも思えない。
		都市型ホテル	今後として、先に増税等ではありますが、企業の接待需要は減少すると思われ、レストランの個室利用も減少。また結納や顔合わせも予約はありますが、安価な商品を予約される状況です。企業の宴席も値段交渉含め合い見積もり等もあり、非常に厳しく感じられます。宿泊予約は、あまり変わらない動きですが、宿泊以外のオンハンド等の減少が見られるためやや悪くなっていると思われま。
企業	製造業（食料品）	お土産用の製品の出荷が伸びていない。	
	製造業（食料品）	通常の暮れと比較すると活気がなく、売上げも伸びていないので先行きが不安です。	
	製造業（非鉄金属）	納入先の生産計画が減産に転じた。	
	不動産業	TX沿線開発に伴い、新規の賃貸物件の戸数が増加しすぎている。人口増加に比べて賃貸物件の供給が多すぎるため、今後空室が増えて賃料が下がり収益率も下がると予想している。	
悪	家計	理・美容店	株価が下がっている。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	ソフトバンク、日産、日立など大企業のネガティブ情報があふれ、また膨大な防衛予算、外国人雇用対策、消費税対策の杜撰さが報道されどうなっているのかの感がします。選挙対策や株価の下支えとかにお金を使うのではなく、もう遅いですが、もう少し筋の通った予算編成をお願いしたいです。



## (5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	商店街代表者	卒業シーズンのため良くなっていると思う。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	2月に中国の長期休暇（春節）があるので、今までよりは忙しくなることを期待しているし、また楽しみにしております。中国が休んでいる間大いに働きたい。我々日本人は資源に恵まれない国なのだから働くこと、学ぶことを忘れたならば明日の日本はありません。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	新年度に向けて需要を期待するにつきる。
		商店街代表者	良くなれば良いなという希望的観測です。
		自動車販売店	新型車の発表があるので、やや良くなると思う。
		日本料理店	現在よりは良くなると思う。学校等の卒業式や入学式、会社では異動、退職、入社等の予約が入ってくる見込みです。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	消費税増税までは一時的な増加があるのではないかと思います。
		製造業（電気機械器具）	受注量が増加（出荷予定より）する。
雇用	求人開拓員	今現在仕事を探している人たちも就職が決定したり、就職先の数も増えて選べる状況になっていると思う。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	近隣の大きな環境の変化は確認できないため、現状の変化はないと考えられます。
		農産物直売所	青果物の価格下落により農家の手取りが減少すると思われる。また、青果物の価格下落による購入価格の差額分を他の商品で補うという選択が購入者に無いように思われる。しかしながら現状も同じなので、景気は変わらない。
		ホームセンター	本年度は前年比較してもほぼ横ばいで、3か月先も良くなる要因はない。
		製茶販売	政府的には景気回復をうたっているのだろうが、庶民は回復を実感していない。かといって今以上に悪くならないと思うので変わらないと思う。
		都市型ホテル	消費税増税や景気の動向を見ても良くなる要素が無い。
		旅行会社	良くなる要素がない。しかし、来年夏以降は国体があるので良くなることを期待している。
		旅行代理店	消費が増えることはないと思います。旅行の参加者も一桁では実施出来ない。これから新年の初詣やイルミネーションを計画しますが、参加希望者が少ないようです。家族で近くの温泉に行きたいそうです。団体で1泊や2泊の旅行は行く予算が無いといったりました。
		タクシー会社	変化を感じない。
		タクシー運転手	工場等への来訪者は増えているものの、長距離運行はそれ程なく、景気が良くなってきていると思うが、回復傾向とまでは言い切れない。
		ドライブイン	ボーナスや昇給具合から考えると変わらない。
		ドライブイン	お客様の消費行動に変化は見受けられず、必要不可欠な物しか買わない傾向に変化はない。
		ゴルフ場	予約状況より、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	予約進捗が前年同時期をやや下回っているが、直近になり良化傾向になっている。
		理・美容店	良くなる要素が見当たらない。
	住宅販売会社	お客様から話を聞いても、景気が上昇する要素がないため、さほど変わらずと判断します。	
	企業	農業関係者	今のような感じのまま推移していくのではないかと思います。
		製造業（輸送用機械器具）	特に変化は見られない。
		製造業（化学工業）	大きな変動情報は無い。
		製造業（金属製品）	現状のまま推移するのではないかと思います。しかし、3月に入り客先の中には買い控えをする企業もありそうである。
		製造業（金属製品）	受注量が変化しない。
製造業（電気機械器具）		長期的な変動予測は難しいが、受注増による人員増の要請が減少している状況は当面続くと思われる。	
建設業		特に変動を感じない。	
建設業		受注量の増加に期待できれば良いと思う。今はちょっと厳しい状況。材料の高騰などもあり、変わらないと判断する。	
雇用	金融業	今後3か月では大きな変化はないものと思料するが、旧千代川村地区に「しもつま鯨工業団地」の開発が進んでおり、圏央道開通の相乗効果により、市近隣の景気上昇が期待される。	
	公共職業安定所	求人数は高水準で推移し、求職者も今後増加が見込まれる。	
	学校就業関係者	人手不足により、県外からの求人が多い。しかし地元志向が強いため、県内企業への就職を希望するものが多く、少子化もあり企業の手不足が依然として続くと思われる。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	国の政索でキャッシュレスが進められるが、カードの安全性、個人情報の漏えい、消費税増税など、不安が多いと感じます。
		スーパー	3か月の傾向が悪いため、悪くなっていると感じる。
		衣料品販売店	季節的な要因以外に集客する方法がない。
		家電販売店	PayPayのキャンペーン終了後の反動が考えられる。
		レストラン	競合店が同じ街に出来る。
		飲食業	お客の打ち合わせ内容が段々細かくなり、なるべく安くしようとする感じがします。
		タクシー運転手	増えすぎた3連休の影響で週末の売上げが激減すると見込まれる。(来年の)ゴールデンウィークの10連休は、全く仕事にならない。
		パチンコ店	遊技台の性能が低下するため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	紙の値上げが通知されているので、製品の値上げはできそうもない。
	雇用	求人広告	夏を境にあまり景気の良い話が出てこなくなった。そのため、求人を行う理由も「業務拡大」や「増員」などの前向きな要因が少なくなってきた。景気がよくなるにはもう少し時間がかかる気がする。
悪	家計	クリーニング店	クリーニングは天気(暖冬)に左右されますので、春までは品物の点数は下がる。



### Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	勝田駅周辺では空き地を利用した大型の駐車場が増えているが、週末だけはどこも満車になっている。駅前の飲食店に週末人が殺到している様子がうかがえる。
	スーパー	競合他社のイレギュラーな単独チラシが乱れ投入されており、売上げが安定している場合はこの様な投入がされることはないので、業界全体で厳しい状況がうかがえる。
	スーパー	夕方4時以降の人数が減った。
	コンビニエンスストア	客数の落ち込みと客単価の上昇が今の傾向です。余計なものの買物は減少している一方で、価値のあるものに対しては、お金を使う傾向が強いように感じます。
	衣料品販売店	インターネット・レンタルの利用が増加している。
	小売業（弁当・惣菜店）	景気観は相変わらず悪くはないが少しもやもやとした感じです。急激な人口減も大きく影響したのだろうか。地元有力企業の取引先関係でもそれぞれに景気観に差がある感じである。
	小売業（水産物）	景気に関係していると思うが、市内の人口流出が増加しており、人材不足で困っている。機械に頼りたいが導入にも経費がかかり、頭をかかえてしまう。
	小売業（時計）	とにかく来店者数は減っている。
	レストラン	良くなることを祈りたいです。お客様は不安だらけの日々であると話しております。若い人は自分たちの将来はどうなるのか分からないので、何も計画出来ないと言っております。
	スナック	相変わらずエコカー購入が多くみられる。
	ラーメン店	市内にチェーン外食店が出店してきて少し活気が出てくるかなと思われる。
	食堂	コンビニでも弁当は出ない。カップラーメンとおにぎり一個。飲み物は売れない。ペットボトルを持ってきてお茶を入れて行く。ボーナスが入ってから少し良くなると思います。
	タクシー運転手	H30年12月は忘年会シーズンで、夜の利用者も増加傾向かと思われる。
	タクシー運転手	コンビニ閉店跡が増えている。企業の残業退勤が減り、タクシー利用が激減している。いつのまにか、空き地になっている。
	企業	ゴルフ場
ゴルフ場		茨城国体の動向を注視している。事業転換の影響がどう動くか注目している。県会議員の選挙結果で先行き懸念が見えて来ている。米中貿易問題、英国EU離脱の行方、他のリスクがどうなるか様子見である。
写真店		新しいアパート・マンションが周囲にできはじめている。
住宅販売会社		現状では消費税に関しては、急ぐ傾向は見られない。
林業関係者		活発な丸太取引もあり運送業界が伸びている。業務過多に見受けられる。
製造業（食料品）		国産の農産物が天候不良により価格高騰が相次いでいる。今後の価格高騰あるいは供給不足になる可能性が心配される。
製造業（電気機械器具）		ダンボールが値上がりしている。
製造業（電気機械器具）		人材の確保が困難な状況である。新卒、中途、派遣すべてに言えることである。
製造業（食料品）		近くのスーパーは、最近客が少なくなっているような気がする。
製造業（化学工業）		金融関係のアプローチ（貸付）が活発。
製造業（電気機械器具）		材料（鋼材）の入手困難（取り合い）の影響により、来年早々当社製品の生産高が減少する見込み。
製造業（輸送用機械器具）		米国の中間選挙の結果、与野党ねじれ現象が発生し、大統領の支持率を意識した米国ファーストの政策がより強硬に推進されるような危機感を強く受ける。その最大の問題が米中の貿易問題となっていると想定され、この動向によって日本の輸出等に大きな影響がでてくるものと心配される。また国会で審議されている外国人の受け入れの問題も、現状抱えている中小企業の直接ワーカー不足が良い方向に緩和されていくのか注視したい。
製造業（精密機器）		短納期ができると決定率が高くなる。
製造業（精密機器）	一部の動きがわからないので、今後どうなるか不明だが、国内の大手企業の動向はあまり良くないと思う。	
情報通信業（情報サービス業）	技術者不足が続いており、新卒・中途採用が厳しくなっている。	
雇用	公共職業安定所	建設業では震災復興関係工事の津波対策工事や河川改修工事などの公共工事が多かったが、一段落している状況で民間工事も多くない。新規採用は厳しさが増している。人手不足が課題となっている。
	求人開拓員	県北地域の中小企業が集まり、外国人技能実習生を受け入れる監視団体の協同組合を設立した。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	以前に比べて、景気の好・不調が、地域（狭い範囲で）や業種でかなりバラつきを感じる。
	商店街代表者	来年は元号も変わり、その準備として日付印（データスタンプ）の問合せが何件かありました。例として西暦表示にするか元号表示にするか、〇〇1年・〇〇元年にするか、これから納品物は平成32年はいらぬから1年・2年・3年・4年・5年と長く使用出来る物にして欲しいと言う問合せがある。
	百貨店	個人消費は持ち直しているとの報告があるが、消費マインドはやや低迷しているムードを感じる。
	スーパー	店舗ごとの明暗がはっきりしてきた。体力のない店舗は廃業してしまい、残った店舗は経営が安定していくと思う。
	スーパー	菓子類・住関連の利用が下がっている。
	スーパー	国産ウイスキー（プレミアム）の品薄が続いているため、スコッチウイスキーの販売量が伸びている。
	スーパー	購買はよりシビアになりつつあるのを感じますが、健康、美容関連報道による影響は大きいです。
	スーパー	先日、神奈川へ行ってきましたが、行き先が観光地ということもあり若い人やファミリーが多く大変活気があり皆さんの元気をもらって帰ってきました。地元はいつも閑散としていますが、人が集まれば活気も出るし、消費行動も活発化するのでもっと工夫していく必要があると感じました。
	コンビニエンスストア	一例として、18歳以下の子どもの数が減っているのに、当地区では学習塾の数は増え続けている。お金の使い方が物からサービス（教育費・ネット関係等）へ移っており、店舗運営（売上・利益）は厳しくなっていくと思う。
	小売業	人手不足、または人件費の高騰により店または企業の収益にかなり差が生じていると思われる。
	自動車販売店	私達自動車業界においては、税制がどの様になるのかお客様からの質問が多いです。
	農産物直売所	忘年会の会費を昨年より上げたら参加者が3分の2になった。
	レストラン	来年10月からの消費税増税の話が少し聞こえてきている。
	割烹料理店	株価などのニュースでは、バブル期並みかそれ以上と聞くと、大手企業の株が上がったところで、我々の生活レベルが上がることと直結するのかわかりは疑問。
	都市型ホテル	年々、金額の動き、お客様の考え方がシビアになってきていて、費用ばかりが増加し売上げ等が全くついていっていない。
	観光型ホテル	外国人の個人旅行が少しずつ増えてきている。
	旅行代理店	ピークは過ぎつつありますが、外国人観光客は相変わらず多い。（インバウンド好調）
	旅行会社	都会はボーナスが出て景気が良い話を聞くが、茨城は一向に景気が良くならないです。
	タクシー運転手	今年の水戸の繁華街は、お客様の数が減っている気がする。選挙の影響も多少あると思うが、魅力ある大工町にして欲しい。
	タクシー会社	子育て支援「ママサポートタクシー」の登録件数が大幅に増加し、ご利用も陣痛時や通院・買物等により、登録者の約6割以上の方が利用されています。現在は、特定地域限定にて受付していますが、本事業の地域拡大によりご利用登録者が増加すると判断しています。子育てにやさしく便利な地域のPRを県外に発信して、定住人口を増加させることが大切な取り組みと位置づけて利用者の意見を反映しつつ取組強化を図っていきます。
ゲームセンター	高校・大学生の入場者が減少気味であり、ゲームセンター離れが起きている感がある。	
スパ・銭湯	市街地に住宅・不動産メーカーの店舗が次々と出来ているように思う。人口減少の中大丈夫かなと思うこともある。同じように、テレビCMも多い。	
ペット美容室	お金でお金を稼ぐような考えを持ち始めている人が多い。	
建築設計事務所	忘年会のお誘いが少なくなった。これも景気のパロメーターと思う。	
企業	製造業（食料品）	老舗の廃業が何軒か起きています。
	製造業（印刷・同関連業）	当社から見たお客様は、特別な変化があったとは思えない。（売上げから判断して）
	製造業（印刷・同関連業）	報道などで景気が良くなっているといわれているが、全く感じられない。
	製造業（窯業・土石製品）	消費意欲が無いと思う。
	製造業（一般機械器具）	全体的に人手不足である。
	製造業（精密機械器具）	これだけインターネットが普及し、あらゆる情報が取得出来る世の中だが、わざわざ足を運ぶ展示会の役割を再認識しました。最近、展示会に出展して結構な引き合いがありました。
	建設業	大組織の上層部の動きは良いが、末端で働く人たちの悲鳴を聞く。末端まで資金がまわらないとこの状況が推移するだろう。
	運輸業（道路貨物運送業）	運賃等物流費のアップが少しずつ浸透してきている。
	金融業	水戸ラーメン祭、水戸漫遊マラソン等の各種イベントが数多く開催されており、各団体が水戸市活性化のために積極的な活動をしている。
	不動産業	市内の賃貸物件の供給数が高いため、賃料の下落が進む。20代、30代前半の世帯の戸建の購買意欲が増税に伴い増加する。
サービス業（広告業）	住宅建築業界で売掛金の未払いや遅延が増えてきた。数社は取引条件を厳しくしたり、やんわりと断っているケースがある。	
工務店	鉄モノ盗難が多く発生している。	
雇用	公共職業安定所	人材難のため、当所からの求人条件緩和の提案に応じてくれる事業所が増えており、未経験者が応募できる求人や年齢不問の求人を受理することが多くなっている。ただし、賃金の引き上げに関しては慎重で、特に零細事業所は最低賃金の引き上げ分の変更が精一杯で、それ以上の引き上げは負担が大きいようである。

## (3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計	商店街代表者	茨城国体や、東京オリンピックなどのイベントに対する会合や広告などを見る機会が増えている。景気好転への一助になることを期待したい。	
	スーパー	客数が減少しており、要因がわからない。	
	スーパー	人手不足が慢性化しており、採用が非常に困難な地区が増加している。他県企業の県内進出による競争激化。	
	衣料品販売店	ミシンや布団類等、お店の中では、高価なものを購入しようか考えているお客様は、消費税が上がる前にということを考えている人が多いため、昨年よりも高額な商品を買うか考えている人は増えたように見える。	
	家電販売店	集客そのものは減少しているものの、購入商品については高付加価値なものを選択されており、客単価は上昇している。	
	農産物直売所	来年の4月からの法改正で雇用人件費が心配。	
	小売業（薬品店）	町内の小売店は減少し続けていて、人の通りも減少し続けている。	
	小売業（食品）	増税前の駆け込みが気になる。	
	小売業	国として、キャッシュレスをすすめる意向のためか、店頭でもクレジット決済が微増している。経営側からすれば、クレジット決済の手数料負担料が大変重い。死活問題である。	
	和食レストラン	消費税増税への対策、さらには不透明な二重課税（8%と10%が並行する）、電子決済時の優遇等、当社のような外食産業は対応に苦慮している。後ろ向きな設備投資（レジ対策等）が見込まれ、顧客対応含め、難題となっている。	
	洋食食堂	5年ぶりに新聞に店舗紹介があり（今回は常陸牛のステーキ）、週末を中心に多くのお客様に来店していただいた。新聞（マスコミ）の強さを再認識した。3000円前後のコースの予約が増えている。	
	割烹料理店	今でさえ税込の予算で宴会の話をお客さんにされるが、10月から消費税が上がるのと、その分食い込むばかりと思われる。	
	日本料理店	今年は羽振りの良い忘年会が少なかった。	
	企業	海鮮料理店	2年くらい前は、飲み会等で11月12月は予約がうまり仕事に意欲もありましたが、生活している人がいないと思うほど人の動きがありません。新しく出来る道路などの影響もかなりあります。人口が増えないのに、どうして道路ばかり作るのですか。
タクシー運転手		景気が良いとは言えないが、悪いなりにサービス業である以上サービス向上に努める必要がある。値上げも必要だがその前にやるべきことがあるように思う。お客様も大事にし、運転手も変わらなくてはいけない。	
ドライブイン		秋の陽気が良かったため、野菜の価格が安い状況が続いている。	
クリーニング店		65歳を過ぎても（年金が減額されるので）働ける職場を探している。子供世帯と別居なので、税金・電気料・交際費・食費等、全部親世帯が支払っている。	
農業		農業関係者	最近では人の異動が激しく、勤務時間が短い若い方が仕事を辞める機会が多く、離職率も高くなっている。このようなことから、世の中の景気が良くなってきており、労働力不足が深刻化しているのではないかとと思われる。
		製造業（食料品）	温暖化の影響と思われる海水温上昇により、魚群（鯖）の南下が昨年より約1か月遅れでの地元水揚げとなった事で想定以上の魚価高が実現し、地域限定での景気は良くなっているが、付随して缶詰製品価格の値上げが伴うために、今後の末端販売状況に注視が必要。
		製造業（電気機械器具）	人手不足がより大きな課題となっている。どの業種からも聞こえてくる。仕事はあるが人材不足で機会損失する可能性が有ることが懸念される。
		製造業（金属製品）	街中、特に飲食業についてはお客様が少ないように見える。元気が良いのは全国展開しているレストランや専門店。
		建設業	外国人実習生の雇用を実施しておりますが、政府の方向性が確立していない状況です。受け入れを実施する企業にとっては、煩雑になる書類に忙殺されます。
		金融業	消費税の税率が上がる前に設備投資を考えている顧客が多く、駆け込み需要の反動が心配である。軽減税率の対応がうまくいっていない顧客も多く、ポイントの対応（クレジット決済）の動きで、大手企業に顧客を奪われてしまわないか心配である。
		保険業	12月1日より麻生公民館広場にてイルミネーションが点灯されました。地元企業100社協賛のもと12月31日まで点灯です。
雇用		不動産業	ここ2年間くらいで、ビジネスホテルが約500～550室出来ました。（現在建築中を含めて）驚きです。
		人材派遣業	鹿嶋・神栖地区ともにダンブ・トラック等の運搬車の往來が少ない。夜のにぎわいが少ない。買い物客に活気がない。
		民間職業紹介業	日本人労働者は職種によっては確保が厳しい。外国人（就労可能ビザ取得者）からの求職が多くなってきている。

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計	スーパー	外国の労働者（客数）が増えている。	
	小売業	クリスマスなどの社会的な購買動機が昔のような勢いを感じない。ギフトへの熱が安定化してきている。正月景気も身の丈に合った過ごし方が定着している。	
	小売業（生花店）	同業者で消費増税を機に廃業の話が2軒ほど出てきており、今後小売業は半減する方向へ向かうと思われる。	
	小売業（米穀）	景気が良くなった実感が無いのに、TVのニュース等で景気が良くなっていると言われても違和感しかないというのが、挨拶代わりになっています。	
	和食食堂	ボーナスが下がった。	
	日本料理店	忘年会減少。夜のお客様の減少。当店の場合、鰻以外にもっとひきつけるメニュー作りを力を入れ、バス客の増加に力を入れる。（2年先に近くにみちの駅が出来るため。）	
	洋食食堂	年金生活のお客様も多く来店されますが、習い事、サークル、たくさん楽しみを作っているの、その関係の団体予約は多くいただく。	
	都市型ホテル	このエリアのセンター地区が、顧客などでも話題となっており、公共機関が手を引いたことから、マンション建設が予想されます。将来的に夜間人口は増加しますが、昼間は首都圏へ流れる傾向、車社会であるこのエリアでは、中心部より周辺のショッピングセンターに流れが予想され、センター地区の空洞化が予測される、という話題が良く出ています。	
	都市型ホテル	客室で使用するリネン類の値上げがありました。当ホテルでは、客室料金の値上げはせず、クローゼットに浴衣をしまうなど経費を抑えることにより、料金の変化をしないよう進めています。	
	タクシー運転手	週3で通っている牛井屋で並んでも牛井単品で注文するお客はおらず、鍋焼きやセット注文が多いのを見ると景気の上向きを感じます。	
	タクシー運転手	土浦真鍋新町にあった旧協同病院跡地に、7階建てのビジネスホテル「ルートイン土浦」が来年1月29日オープン。全室209室の建物。宿泊客は自家用車かタクシー利用と思われるので期待したい。	
	タクシー会社	景気が悪すぎて、人員まで削減されて十分に仕事が出来ない。	
	サービスエリア	パート・アルバイトを募集するも、応募が少なく困っている。	
	ゴルフ場	来年の消費税のアップによる景気動向について、話をすることがある。	
	ゴルフ場	来年のゴールデンウィーク10連休が実現するかどうか、これによって景気にも影響が出そうだ。	
	テーマパーク職員		2019年の消費税増税による影響が利用料金に関わってくるか気になるようです。弊施設は全国に展開する森林体験アウトドアパークです。2018年度は暑さなどの気候の要因もなかったとは言えませんが、トータルしてみると大幅な減ではありません。気候的な要因があったにせよ取り戻している部分もあります。また、利用料金を今年度内に引き上げた施設をみても来場者は安定しています。まだまだデータとして不十分ですが、感覚としては弊施設のようなレジャー産業は景気が落ちているという感覚はありません。もう少し世の中の動向から影響を受けず、運営していけるのではないかと感じています。
		理・美容店	近場の区画整理した土地に家を建てる方が減っているようです。もしかして景気も悪くなっているんですかね。
住宅販売会社		25歳の部下が家を買おうとしている。	
企業	農業関係者	ゼロ金利政策による金融機関の収益激減の状況は深刻だと感じる。これまでサービスしていたことを有料化する検討をしています。将来が不安ならば新しいことに手が出ません。しかし、不安からこれまでの仕事に対して、振り返り改善しなければならぬとの意識は生まれてきています。	
	製造業（食料品）	この近辺では、スーパーの乱立状態が見られます。どのようなスーパーに客足が向いているかの第一の理由は、野菜の鮮度と価格にあるようです。	
	製造業（家具・装備品）	個人の小売業の方は、店を閉める方が目立ちます。これから先は明るくなるでしょうか。	
	製造業（その他）	どこの会社も製造業は人手不足の悩みがあると思います。	
	製造業（窯業・土石製品）	最近リクナビによる中途採用者の募集を行っておりますが、求職者の50%が近畿地区でした。関東地区は22%ですが、これを見ると関西の景気が悪いのでしょうか。	
	製造業（窯業・土石製品）	人手不足の中、政府による働き方改革の推進により残業上限や有給休暇の取得など、中小企業にとっては厳しい状況が予想される。	
	製造業（非鉄金属）	人手不足感が幾分やわらいだ。	
	建設業	建設自営業者で70～75歳になってきたので、廃業する人が何人かいた。子どもは別の仕事をしており、事業継承が難しい。伝統産業ならそうでもないのだろうが建設業では、これからも廃業する個人業者が増えてくるだろう。	
	不動産業	駅周辺地区とその他の地区での価格差が大きくなり続けそうな状況。	
	運輸業（倉庫業）	車両、ドライバー不足が深刻化している。	
金融業		平成30年2月26日に圏央道の境古河IC～つくば中央IC間が開通し、関東各地へのアクセスが便利になった。牛久大仏やあみプレミアム・アウトレットなどは都心から約45分となり、圏央道北東エリアでモデルコースを設定し、観光情報誌に掲載。また、地元の人も知らない隠れた人気スポット、お祭りやイベント、体験施設、食文化、観光名所などを紹介し、集客に努めている。各種イベントも盛んに行い、大勢の人が集まるため、地元業者も積極的に参加している。	
雇用	人材派遣業	60代の求職者が目立つようになってきた。企業へ紹介しても、まだまだ高齢者の採用に抵抗がある。	
	公共職業安定所	一部に企業整備の動きがある。	

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	どの業種の人も景気が悪いという。どうすれば良いのだろう。個人店はもうお手上げである。
	商店街代表者	当店のよう小さな小売業でもカード利用者が増えた。スイカも利用出来るシステムにしたら、毎日2～3人の利用者がある。キャッシュレス時代の到来と思われる。
	スーパー	少子高齢化が進み、医療費、介護、教育費がかかるので、普段の食費の切り詰め、節約が進むと思います。
	スーパー	消費税増税の景気対策等マスコミの報道が多くなってきた頃から、消費が落ち込んできたとの声を多く聞きます。
	コンビニエンスストア	ブラックフライデーやネット通販のイベントやセールに対する消費の動きが拡大しているように思います。ブラックフライデーなどを強化して実施していないところでは、大きなマイナスの影響を受けています。
	衣料品販売店	仕事量等多い話は聞いたりするが、消費に使う話はあまり聞かない。
	製茶販売	テレビで景気回復・前年度より上向きなどと謳っているが、実際には悪くなってきていて、ニュース等信じられなくなってきている。一時期アメリカが自国の景気回復のために、他国への援助等打ち切った時代があったけど、日本も他国へ媚を売る前に、自国の内情をどうにかしてもらいたい。不安だらけの中で子孫繁栄は難しい。少子化対策というのであれば、もっと賃金を上げてほしい。生活が苦しいのに口数を増やすなんて出来ないでしょう。
	レストラン	境町の道の駅に3月にレストランができる。個人店にとっては脅威である。
	日本料理店	街全体が閑散としている。にぎわいが無い。
	旅行代理店	安い物を購入する。できるだけ安い物を探している。品物が良いものならば長く使えるけど、今が良ければいいと言っていた。バス旅行も、電車代と比べて判断している。バスは出発地から目的地まで行くのに。ホテル選びも同じように、激安ホテルが人気です。高級より安値のほうが好かれる。
	タクシー運転手	夜の飲み屋関係の仕事が年々減少している。このこと自体が末端が不景気である証拠です。
	ドライブイン	クレジットカードの利用者が増加している。少額の利用者が増加している。求人環境は依然厳しいものがあり、常に不足している。
	理・美容店	圏央道付近の開発が始まりそうなので期待したい。
	商店街代表者	来年の消費税の税率アップの話が出ています。
建築設計事務所	格差が鮮明に確実に定着していく様子が日常的に見られ、みな受け入れている。これは平成末期の特徴であろう。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	現在、取引のある客先での受注減少もなく、新規問合せが増えており全体的には「やや良くなっている」のではないかと思います。
	製造業（電気機械器具）	前年度比において、生活物価の上昇に比べて収入増加率の低さが見られる。
	製造業（窯業・土石製品）	遠出した時目にする光景は、ガソリンスタンド、規模の大きくないパチンコ店、大型トラック、トレーラーが駐車できないコンビニエンスストアの廃業・閉店が数多く目に付きます。税理士さんに「今は何の商売・事業が景気良いのですか」と聞くと何々が良いという業種は無いが、すべての業種で、勝ち組と負け組に両極端に分かれる傾向に変わってきているとのことでした。勝ち残れるよう工夫・改善・情熱を持って、お客様から「無くてはならない会社」と言われる会社作りを進めます。
	製造業（金属製品）	当面、忙しさは戻ったような様子であるが、景気に信頼感はまだない。
	建設業	景気自体は良くなっているのかと思うのは、職人の確保が難しいのと、材料の入手に日数がかかること。
	金融業	平成29年4月にオープンした「さん歩の駅 サン・SUNさぬま」と「わいわいドームしもつま」での、商工会等による各種イベント開催が好評である。市内で商売を行っている事業主、市民一般客双方から、せっかく作った施設なのだからどんどん利用すべきだとの声が多くあり、今後も様々な催しが開催される予定とのこと。
	不動産業	消費税増税を意識して増税前に住宅購入を考えている人が増えている。土地を売却する人が増えている。（自宅用地以外）
雇用	求人広告	一時的なものだとは思いますが、お店を閉める飲食店が増えたような気がする。店の前を通ると、空きテナントになっていたりすることを目にする機会が増えた。
	学校就業関係者	生徒募集のため、高校訪問しているが高卒での就職内定率がほぼ100%に近い。専門学校で技術を身につけることより、就職してから資格を取得させてくれるという企業が多く、専門学校も生徒が集まらず苦勞している。